

調査名	川岸小学校地耐力調査		
図面名	調査位置図	縮尺	1:1000
株式会社	カトー基礎調査研究所	製図	写図

土質柱状図

調査担当者 関口 宣行

調査名 川岸小学校地所カ調査

調査地名 川岸小学校

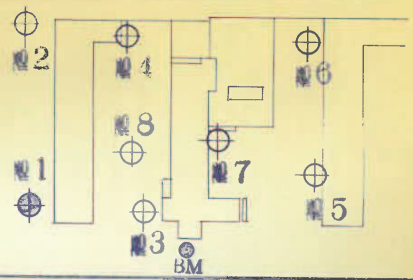
ボーリング工法 ロータリー式コアボーリング

調査年月日 昭和 57年 3月 2日 ~ 3月 4日

No. 1

標高 B.M. 0.304 M 孔内水位 G.L. - 4.00 M ~ M

調査位置図



標高 (M)	深度 (M)	層厚 (M)	断面記号	土質名	色調	記事	コンテンス	相対密度	標準貫入試験					サンプリング			
									打深撃度 (M)	N 値回数	10cm 毎打撃回数				打撃回数 N 値		
0.30	0.00			益土 (標湿り粘土質シルト)	黒灰	礫径 0.2 ~ 50% 位、大礫がある 礫量多し、所と少なり所有 砂全体の割合			1.15								
0.00	3.00	3.00		標湿り粘土質シルト	暗茶灰	礫径 0.2 ~ 60% 位、大礫 砂全体の割合 40% ~ 50% 間、礫量多し、 は、多い	極硬		2.15	6	2	2	2				
-6.30	6.60	3.60		シルト質砂	暗緑灰	上部、砂質、多い。	中位		3.15	17	4	6	7				
-7.10	7.40	0.30		玉石混り砂礫	暗灰	礫径 0.2 ~ 200% 位、大礫 70 ~ 80% 間、玉石	極硬		4.15	25	9	9	7				
-8.45	8.75	0.30		シルト混り砂礫	暗緑灰	礫径 0.2 ~ 200% 位、大礫 10% ~ 15% 間、礫合計 砂質シルト、多い	中位		5.15	4	1	1	1				
-15.07	15.37	0.30		シルト混り砂礫	暗緑灰	礫径 0.2 ~ 200% 位、大礫 10% ~ 15% 間、礫合計 砂質シルト、多い 暗茶色、多い、所と少なり 40% 貫入試験試料、不足 所々、大礫 (0.200% 位) 存在 する 礫量多し、所と少なり所有 5% 貫入試験シルト分多量、含 れ、所有。	極硬		6.15	7	2	2	3				
									7.15	40	6	16	12				
									8.15	250	30	9					
									9.15	500	30						
									10.15	13	5	3	1	1			
									11.15	750	30						
									12.15	300	30						
									13.15	10	1	1	1				
									14.15	300	30						
									15.15	63	12	2	2	9			

土質柱状図

調査担当者 関口 宣行

調査名 川岸小学及地耐力調査

調査地名 岡谷市川岸町

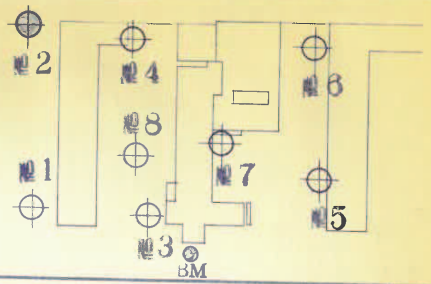
ボーリング工法 ロータリー式コアボーリング

調査年月日 昭和57年3月4日~3月6日

No. 2

標高 B.M. 0.652 M 孔内水位 G.L. - 1.00 M

調査位置図



標高 (M)	深度 (M)	層厚 (M)	断面記号	土質名	色調	記事	コンテンス	相対密度	標準貫入試験					サンプリング			
									打撃度 (M)	N 値回数	10cm 毎打撃回数				打撃回数 N 値		
											10	20	30	40	50		
0.65	0.00			蓋	土												
0.35	0.30	0.30		礫混り粘土質シルト	黄茶褐色	礫径0.2~1.00%位			中位	1.15	1.48	24	7	2	9		
-0.45	1.10	0.80		シルト質砂	暗緑灰	砂石を混入する。			極限	2.15	2.23	185	25	9%			
-1.05	1.70	0.60		玉石混り砂礫	暗灰	礫径0.2~200%位大礫がある 2~40~200%位の玉石が5%以上混入している			極限	3.15	3.33	83	7	11	4%		
-3.15	3.80	6.10		シルト混り砂礫	暗青緑灰	砂石を混入する 上部は細砂とあり 暗灰色と白色あり 5~20~50%位の砂石を混入する			極限	4.15	4.21	230	5	9%			
				シルト混り砂礫	暗青緑灰	4~60~6~40%位の砂質シルト(暗灰色)を含む			中位	5.15	5.29	107	4	13%			
				シルト混り砂礫	茶灰	10%位の砂質シルト(暗灰色)を含む 大礫径0.2~200%位大礫がある			極限	6.15	6.45	21	3	3	2	4	7%
-7.85	8.50	4.70		シルト混り砂礫	茶灰	礫径0.2~70%位大礫がある 礫量の多しと白色あり			極限	7.15	7.35	25	7	9	11	2%	
									極限	8.15	8.20	300	7	5%			
									極限	9.15	9.35	75	15	11	13	4%	
									極限	10.15	10.29	101	25	11	14	4%	

No. 2 土質柱状図 No. 2

土質柱状図

調査担当者 関口 宣行

調査名 川岸小学校地耐力調査

調査地名 関谷市川岸町

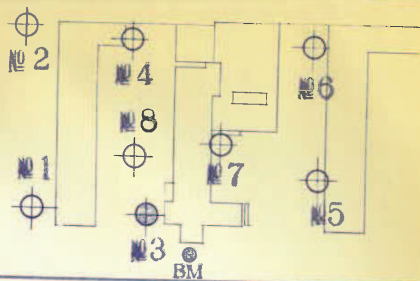
ボーリング工法 ロータリー式コアボーリング

調査年月日 昭和57年3月8日~3月10日

No. 3

標高 B.M 2.122 M 孔内水位 G.L-5.10 M-5.60 M

調査位置図



標高 (M)	深度 (M)	層厚 (M)	断面記号	土質名	色調	記事	コンテンス	相対密度	標準貫入試験					サンプリング			
									打撃度 (M)	N値回数	10cm 毎打撃回数				打撃回数 N値		
2.12	0.00			粘土	暗茶灰	礫径φ2~100%位大礫がある			1.15								
				粘土	暗茶灰	砂全体的に含む			1.30	1.7	100	10	10	10	10		
				粘土	暗茶灰	礫多く混る所と少ない所あり			2.15	2.45	3	45	1	10			
-3.48	3.60	3.60		シルト混り砂礫	暗茶灰	礫径φ2~100%位大礫がある			3.15	3.45	3	1	1	1			
				シルト混り砂礫	暗茶灰	礫径φ2~100%位大礫がある			4.15	4.45	13	1	1	1	1		
				シルト混り砂礫	暗茶灰	礫径φ2~100%位大礫がある			5.15	5.45	16	2	3	4	2		
-7.35	7.70	4.10		シルト混り砂礫	暗青緑灰	礫径φ2~100%位大礫がある			6.15	6.45	17	2	2	3	3		
				砂質シルト	暗緑灰	色調変化あり 茶色 青色帯あり	風結		7.15	7.45	28	5	3	3	2		
-8.62	8.80	1.10		シルト混り砂礫	暗茶灰	礫径φ2~100%位大礫がある			8.15	8.20	300	50					
				シルト混り砂礫	暗茶灰	礫径φ2~100%位大礫がある			9.15	9.45	36	3	4	2	3		
				シルト混り砂礫	暗茶灰	礫径φ2~100%位大礫がある			10.15	10.45	70	4	1	1	1		
				シルト混り砂礫	暗茶灰	礫径φ2~100%位大礫がある			11.15	11.45	40	1	1	1	1		
				シルト混り砂礫	暗茶灰	礫径φ2~100%位大礫がある			12.15	12.45	55	2	1	1	1		
				シルト混り砂礫	暗茶灰	礫径φ2~100%位大礫がある			13.15	13.25	150	2	3				
				シルト混り砂礫	暗茶灰	礫径φ2~100%位大礫がある			14.15	14.20	300	50					
-14.89	15.01	1.11		シルト混り砂礫	暗茶灰	礫径φ2~100%位大礫がある			15.00	15.01	1500	50					

No. 3 土質柱状図 No. 27

土質柱状図

調査担当者 関口 宣行

調査名 川岸小学軟地耐力調査

調査地名 岡谷市川岸町

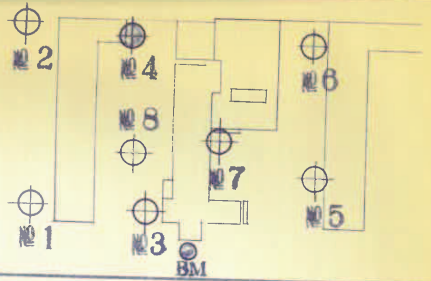
ボーリング工法 ロータリー式コアボーリング

調査年月日 昭和 57 年 3 月 7 日 ~ 3 月 8 日

No. 4

標高 B.M. 0.483 M 孔内水位 G.L. - 0.85 M

調査位置図



標高 (M)	深度 (M)	層厚 (M)	断面記号	土質名	色調	記事	コンテンス	相対密度	標準貫入試験					サンプリング				
									打撃度 (M)	N 値回数	10cm 毎打撃回数	打撃回数 N 値						
0.48	0.00			益土														
1.68	0.20	0.20		玉石混り砂礫	黄茶灰	シルト含有 1.15~1.50間玉石 礫径φ2~20%位丸味 200番入試験試料土寸		極密	1.15	500%								
2.21	0.70	0.50		軽石混り砂		軽石混り砂 礫径φ2~20%位丸味 礫である 1.50~2.25間玉石 シルト混り砂礫 暗青緑灰 500番入試験試料土寸 600番入試験試料土寸		極密	2.15	750%								
2.75	1.20	0.50		砂				極密	3.15	300%								
4.15	2.90	1.70		砂				極密	4.15	257.4%								
5.15	3.90	1.00		砂				極密	5.15	28.12%								
6.15	4.90	1.00		砂				極密	6.15	250%								
7.15	5.90	1.00		砂				極密	7.15	39.65%								

No. 4 土質柱状図 No. 29

土質柱状図

調査担当者 関口 宣行

調査名 川岸小学校地耐力調査

調査地名 関谷市川岸町

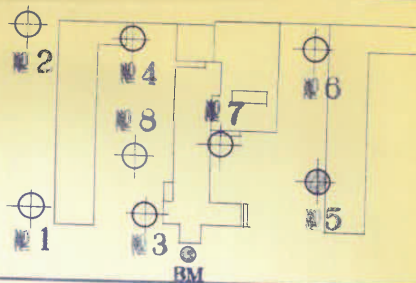
ボーリング工法 ロータリー式コアボーリング

調査年月日 昭和57年3月8日～3月10日

No. 5

標高 B.M. 0.197 M 孔内水位 G.L. -1.45 M -2.00 M

調査位置図



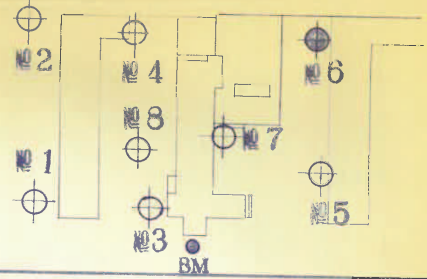
標高 (M)	深度 (M)	層厚 (M)	断面記号	土質名	色調	記事	コンテンス	相対密度	標準貫入試験					サンプリング			
									打深撃度 (M)	N 値回数	10cm 毎打撃回数	打撃回数 N 値					
0.19	0.00			益土													
-0.21	0.40	0.40		礫混り粘土質シルト	暗茶灰	礫径φ2~20%位、丸礫である。砂を含む。		硬	1.15	1.45	11	4	5	2			
-1.01	1.20	0.80		礫混り粘土質シルト	暗乳茶灰	礫径φ2~100%位、丸礫である。砂を含む。		硬	2.15	2.45	24	39					
-1.71	1.90	0.70		シルト混り砂礫	暗茶灰	礫径φ2~200%位、丸礫である。シルト分多く含む。所削。		硬	3.15	3.45	31	66	52	55			
-3.61	3.80	1.90		粘土質シルト	暗茶灰	上部20cm、砂の軽石層入り。腐植物少量含む。		軟	4.15	4.45	2	10	12				
-4.31	5.00	1.70		礫混り粘土質シルト	暗茶灰	砂を含む。礫径φ2~150%位、丸礫である。		極硬	5.15	5.45	12	25	34				
-5.51	6.70	3.70		礫混り砂質シルト	暗茶灰	φ200貫入試験試料土5寸。礫径φ2~200%位、丸礫。10%貫入試験大礫10割N値5%以下。		固結	6.15	6.45	92	43	97	45			
-6.56	10.15	2.05		礫混り砂質シルト	暗茶灰	礫径φ2~10%位。		極硬	7.15	7.45	29	64	74	33			
-11.61	11.80	1.05		粘土質シルト	暗茶灰	φ200貫入試験試料土5寸。砂質腐植物小礫(φ2~5%位)含む。		固結	8.15	8.45	41	53	57	41			
-13.06	13.25	1.45		礫混りシルト質粘土	暗緑灰	礫径φ2~100%位。15%貫入試験先端礫と割N値が2%。		固結	9.15	9.45	41	53	57	41			
-15.31	15.50	2.25		シルト混り砂礫	暗茶灰	礫径φ2~10%位。シルト分多く含む。所削。		硬	10.15	10.45	51	67	72	45			
-17.26	17.45	(1.95)						硬	11.15	11.45	26	44	54	45			
								硬	12.15	12.45	57	73	82	56			
								硬	13.15	13.45	68	83	92	62			
								硬	14.15	14.45	55	73	84	64			
								硬	15.15	15.45	44	64	78	52			
								硬	16.15	16.45	45	67	80	53			

No. 5 土質柱状図

土質柱状図

調査担当者 関口 宣行

調査位置図



調査名 川岸小学校校地耐力調査

調査地名 岡谷市川岸町

ボーリング工法 ロータリー式コアボーリング

調査年月日 昭和57年3月11日～3月12日

No. 6

標高 B.M. 0.418 M 孔内水位 G.L. - 1.20 M

標高 (M)	深度 (M)	層厚 (M)	断面記号	土質名	色調	記事	コンテンス	相対密度	標準貫入試験					サンプリング	
									打深 N 値 (M)	10cm 毎 打撃回数	打撃回数 N 値				
										10	20	30	40	50	
0.42	0.00			粘土											
1.20	0.30	0.30		粘土質シルト	茶灰	小礫(20~10%)存在する			極底	1.15	13	2	1		
0.78	1.20	0.90		シルト混り砂礫	暗茶灰	色調変化有り 石炭量の多い所と少ない所有り 3%~5% 礫分少くは、多い 石炭径0.2~1.0%位大礫である			極底	2.15	23	4	2		
4.38	4.80	3.60		砂混り砂質シルト	暗茶灰	重石多量に含む所有り 礫径0.2~2.0%位大礫である	固結		極底	3.15	42	6	4	2	
5.42	5.90	1.10		シルト混り砂礫	暗緑灰	礫径0.2~1.0%位大礫である			極底	4.15	55	8	5	3	
6.38	6.80	0.70		砂混り粘土質シルト	暗灰	礫径0.2~2.0%位大礫である	極硬		極底	5.15	38	5	3	2	
7.69	7.30	0.70		シルト混り砂礫	暗灰	300番入試験試料土あり			極底	6.15	42	6	4	2	
10.03	10.45	0.45		シルト混り砂礫	暗灰	礫径0.2~2.0%位大礫である 100番入試験試料土あり			極底	7.15	21	2	1	1	
									中位	8.15	15	2	1	1	
									中位	9.15	60	8	4	2	
									中位	10.15	22	2	1	1	

No. 6 土質柱状図 No. 30

土質柱状図

調査担当者 関口 宣行

調査名 川岸小学校地所調査

調査地名 関谷町川岸町

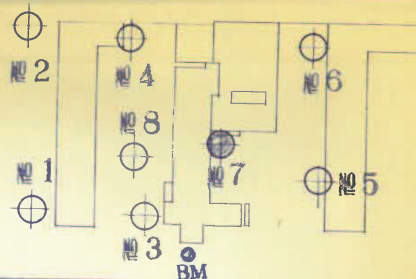
ボーリング工法 ロータリー式コアボーリング

調査年月日 昭和57年3月11日~3月12日

No. 7

標高 B.M 0.329M 孔内水位 G.L.-1.10 M

調査位置図



標高 (M)	深度 (M)	層厚 (M)	断面記号	土質名	色調	記事	コンテンス	相対密度	標準貫入試験						サンプリング		
									打深撃度 (M)	N 値回数	10cm 毎打撃回数			打撃回数 N 値			
0.33	0.00			盛土													
-0.02	0.35	0.35		礫混り粘土質シルト	暗茶灰	礫径φR~100%位。大礫多量。		硬									
-1.17	1.50	1.15		シルト混り砂礫	茶黄灰	礫径φR~150%位。大礫多量。礫量の多い所と少ない所あり。		硬									
-3.57	3.40	2.40		砂質シルト	暗茶灰	5%の貫入試験試料より軽石、スゴク混入する礫を認め含む。		軟									
-4.42	4.25	0.85		粘土質シルト	暗茶灰	礫を含む。		硬									
-4.92	5.25	0.50		礫混り粘土質シルト	暗茶灰	礫径φR~100%位。大礫多量。		硬									
-5.42	5.80	0.55		シルト混り砂礫	暗茶灰	礫径φR~200%位。大礫多量。		硬									
-8.57	8.90	3.10		シルト混り砂礫	暗茶灰	礫径φR~200%位。大礫多量。礫量の多い所と少ない所あり。		硬									
-9.07	9.40	0.50		礫混りシルト質粘土	暗茶灰	礫径φR~150%位。大礫多量。		固結									
-10.12	10.45	1.05		礫混り砂質シルト	暗茶灰	礫径φR~150%位。大礫多量。		硬									

土質柱状図

調査担当者 関口 宣行

調査名 川岸小学校地耐力調査

調査地名 函谷市川岸町

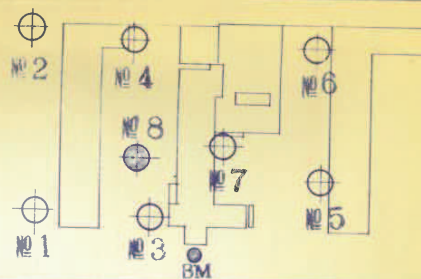
ボーリング工法 ロータリー式コアボーリング

調査年月日 昭和57年3月13日 ~ 月 日

No. 8

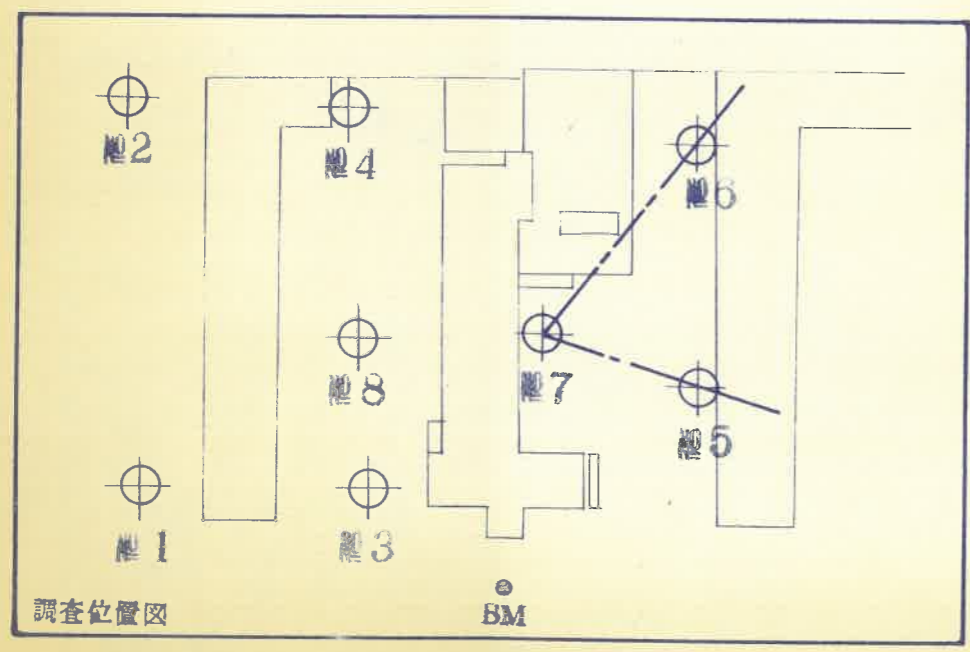
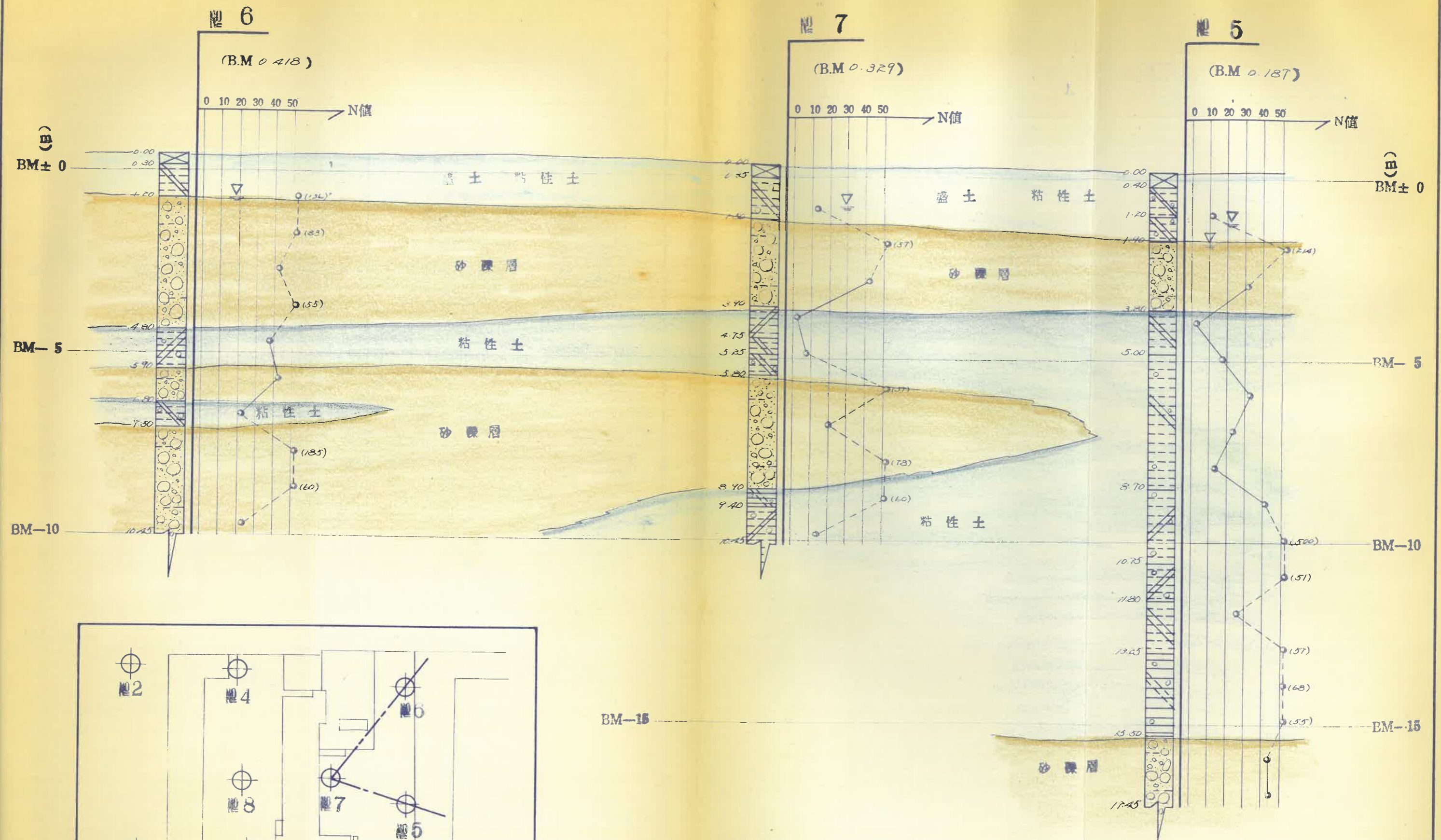
標高 B.M. 0.099M 孔内水位 G.L. - 3.50 M

調査位置図



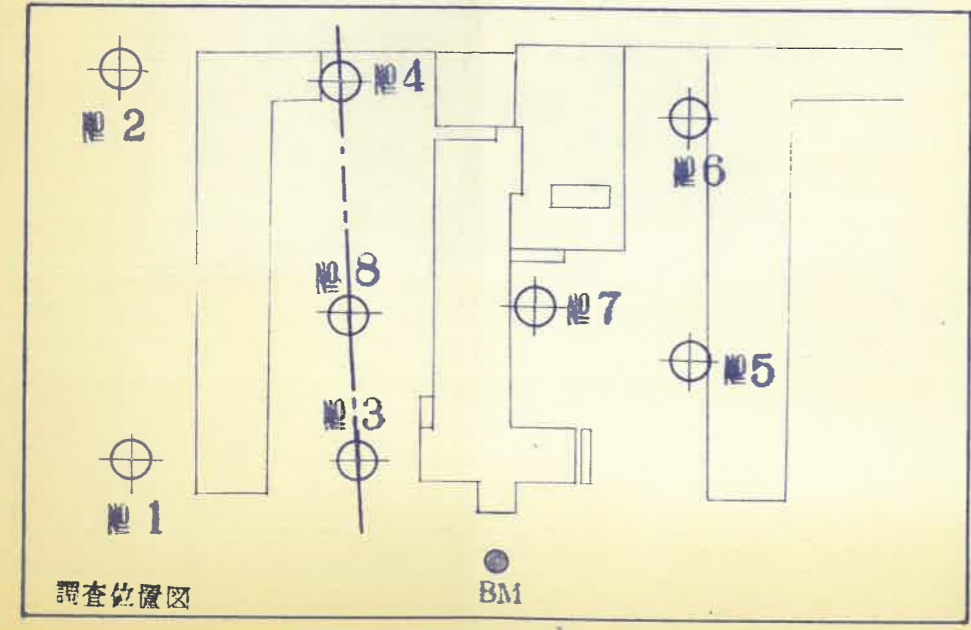
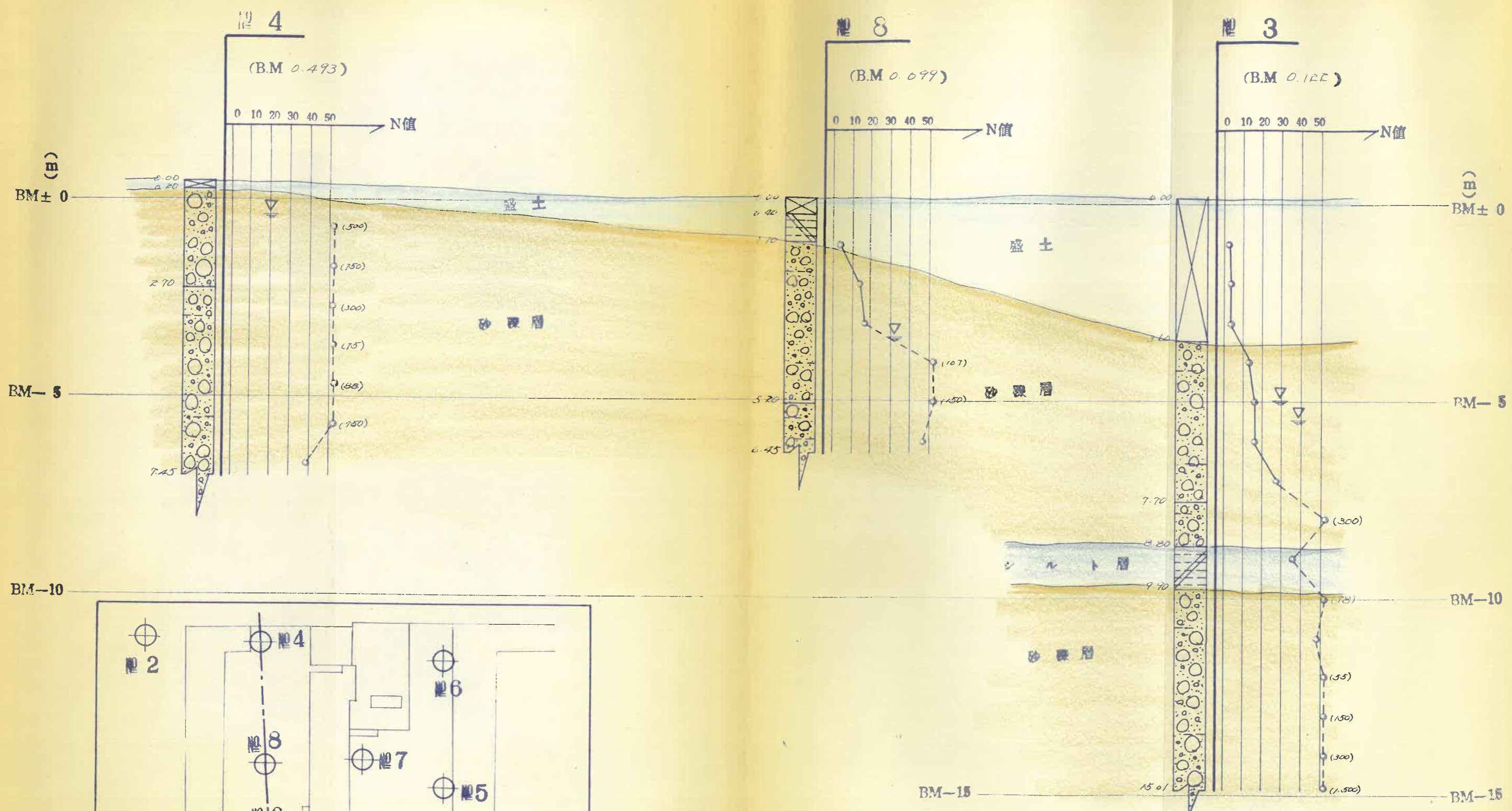
標高 (M)	深度 (M)	層厚 (M)	断面記号	土質名	色調	記事	コンテンス	相対密度	標準貫入試験					サンプリング		
									打深 N 値 (M)	10cm 毎打撃回数	打撃回数 N 値					
0.10	0.00			益土												
-0.30	0.40	0.40		粘土質シルト	暗灰	色調変化有り 茶灰色と ばる所有り			極強 1.15 1.45	3	1	1	1			
-1.00	1.10	0.70		シルト混り砂礫	茶灰	石礫径φ2~100%位大 礫がある 石礫量の多い所と少ない所 有り			中位 2.15 2.45	14	2	2	3	3		
-5.10	5.20	4.10		シルト混り砂礫	暗緑灰	3%~3%30周, 粘土質 シルト探む 500貫入試験試料 上り			中位 3.15 3.45	17	1	1	3	4		
-6.35	6.45	0.10		シルト混り砂礫	暗緑灰	石礫径φ2~100%位 大礫がある			極強 4.15 4.29	10	0	0	5			
									極強 5.15 5.25	15	0	0	5			
									強 6.15 6.45	4	7	10	9	6	7	

No. 8 土質柱状図 No. 22



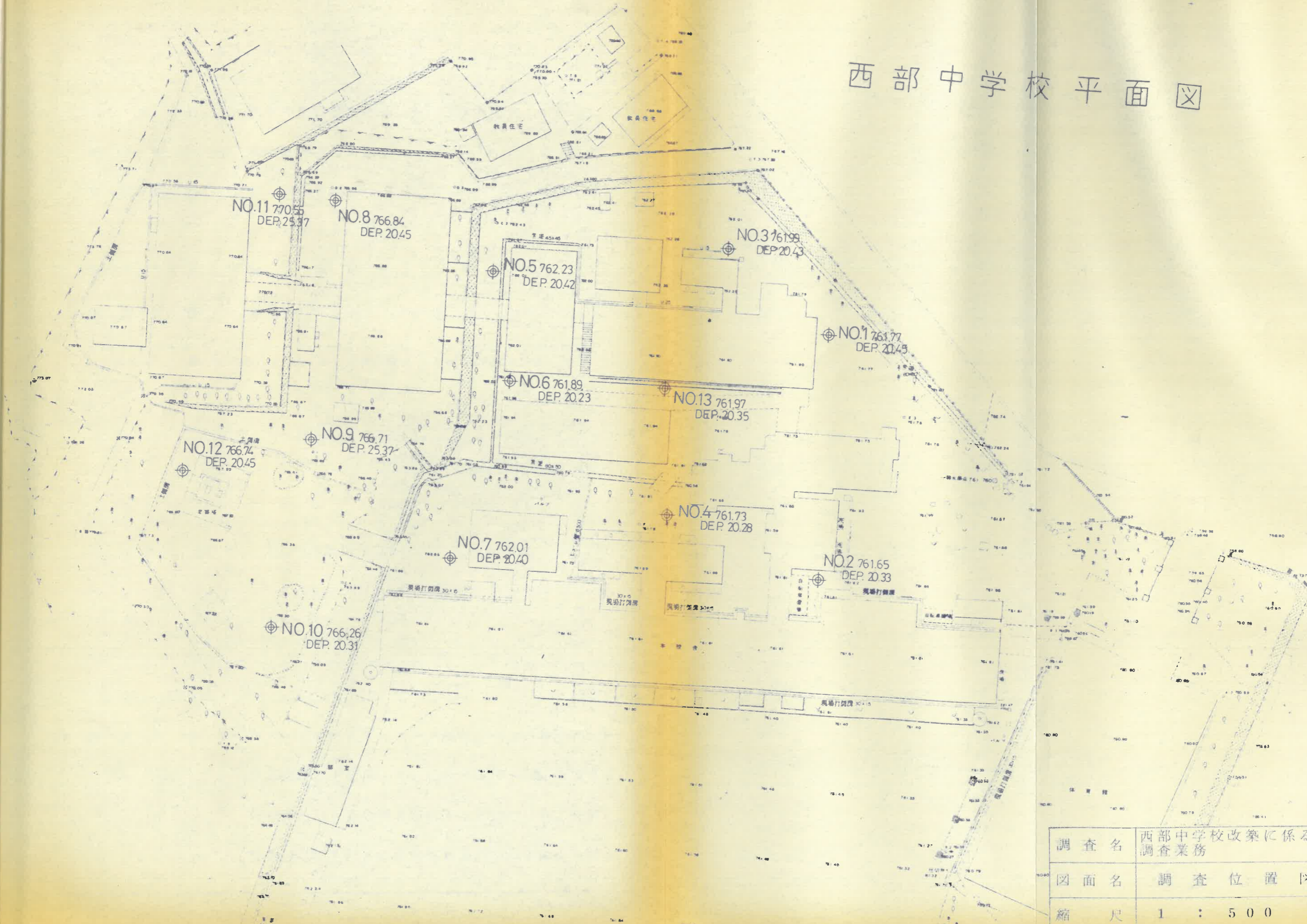
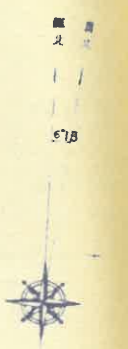
BM-15

調査名	川岸小学校地耐力調査		
図面名	推定地層断面図	縮尺	タテ1:100 ヨコ1:500
株式会社	カトー基礎調査研究所	製図	T.H



調査名	川岸小学校地耐力調査		
図面名	推定地層断面図	縮尺	スケール: 1:100 1:500
株式会社	カトー基礎調査研究所	製図	T H

西部中学校平面図

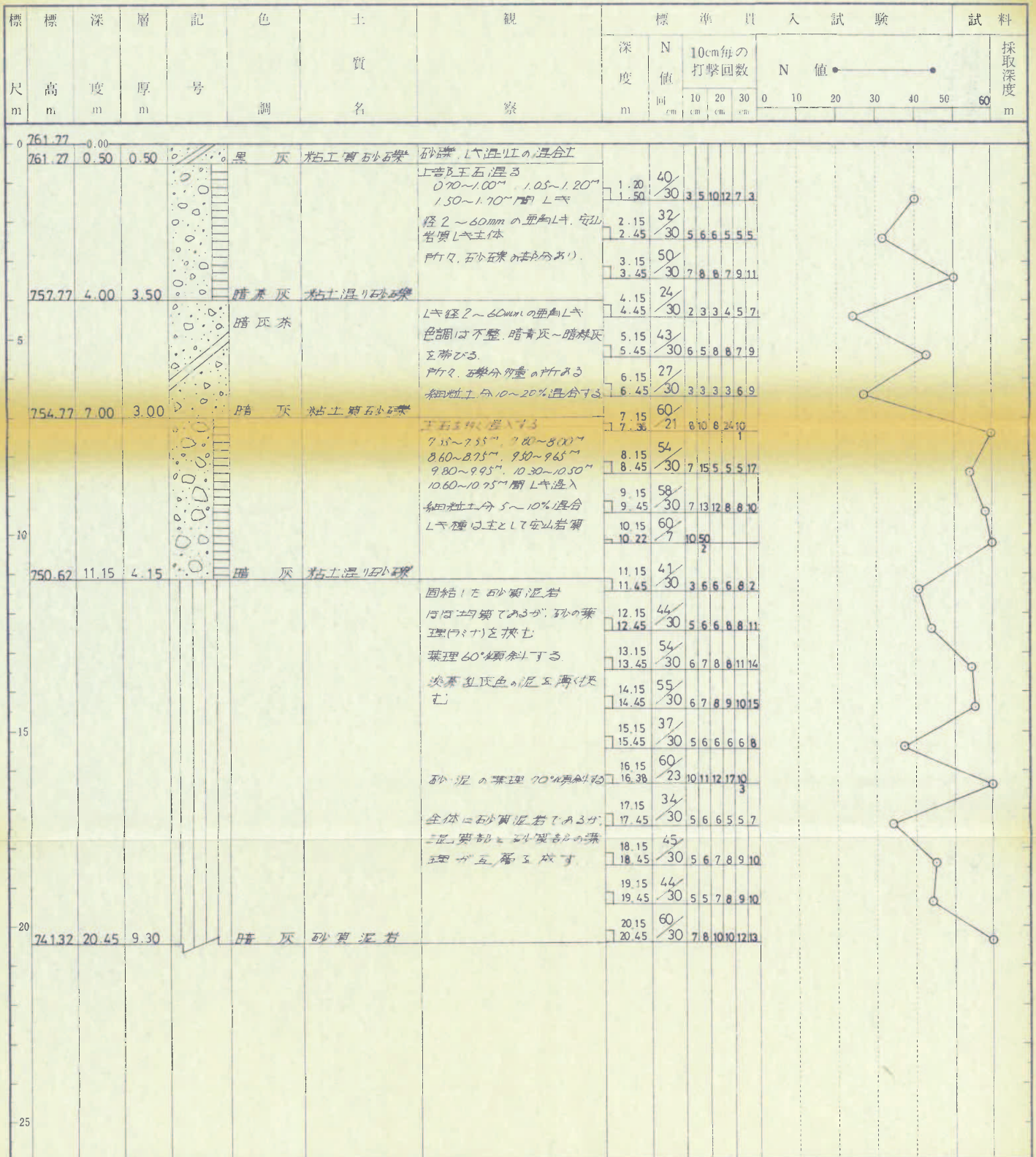


調査名	西部中学校改築に係る地耐力調査業務
図面名	調査位置図
縮尺	1 : 500

試料採取方法の記号(記号の
字は試料番号)
○-1 乱さない試料
◎-2 貫入試験機による試料
●-3 コア-試料
試料採取深度と回収比
3.20-3.70は試料採取深度
(m)
は回収比 45 50
50cm: 貫入深さ
45cm: 試料長さ

第 1 号孔 ボーリング柱状図

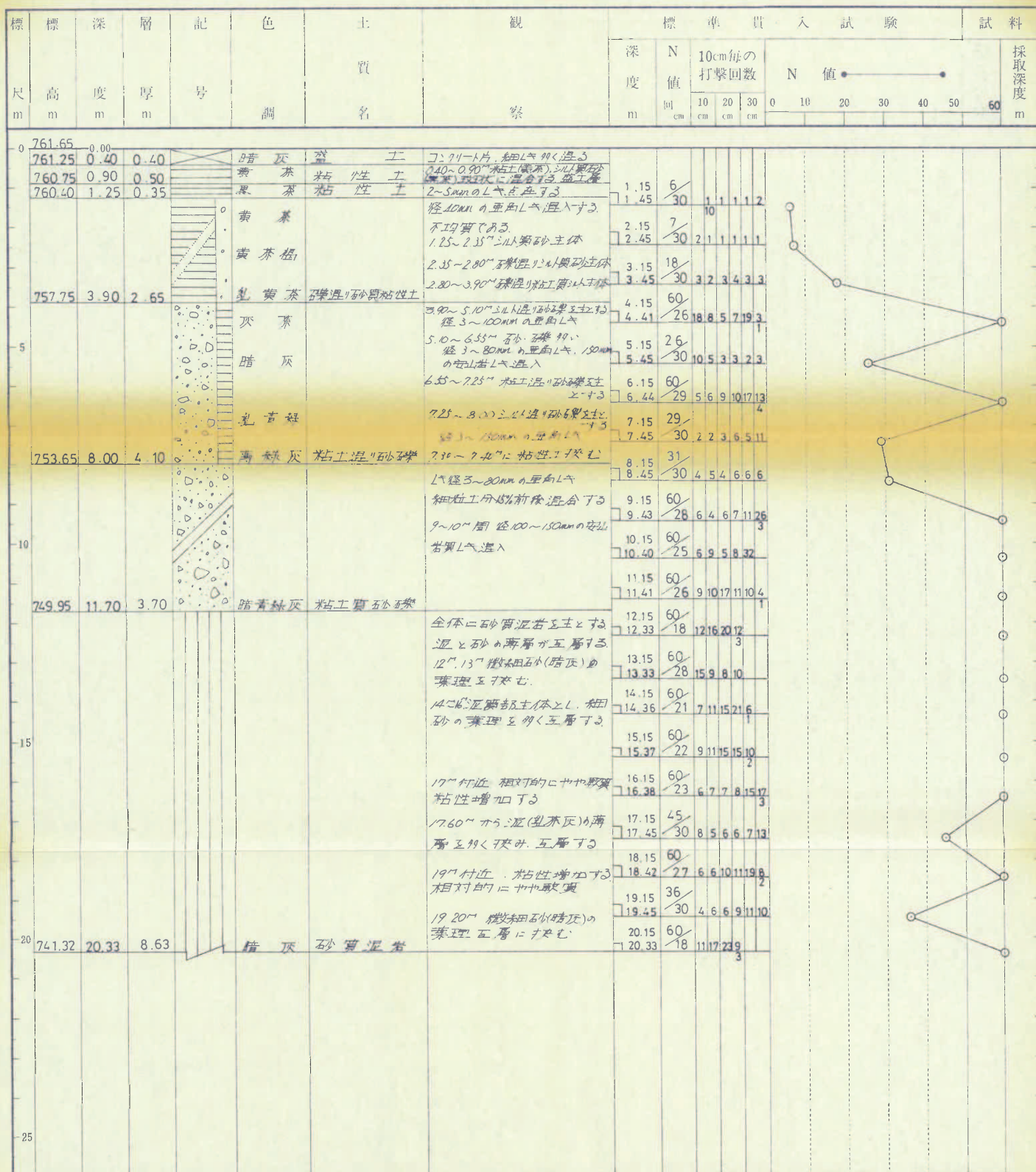
調査件名	西部中学校改築に係る地耐力調査業務		施主	岡谷市役所		
調査地点	岡谷市川岸中一丁目1~1		施工	関東地質株式会社		
調査年月日	自60年11月12日 ~ 至 60年11月14日		現場責任者	小野了介	使用機械	K R-100
標高	761.77 m	孔内水位 自然水位	GL-1.40m	ボーリング担当者	毛利美佐夫	孔径 φ 66 mm



試料採取方法の記号(記号の右の数字は試料番号)
 ○-1 乱さない試料
 ⊙-2 貫入試験機による試料
 ●-3 コア-試料
 試料採取深度と回収比
 3.20 3.20-3.70は試料採取深度(m)
 45 は回収比 45 50
 50 50cm:貫入深さ
 3.70 45cm:試料長さ

第 2 号孔 ポーリング柱状図

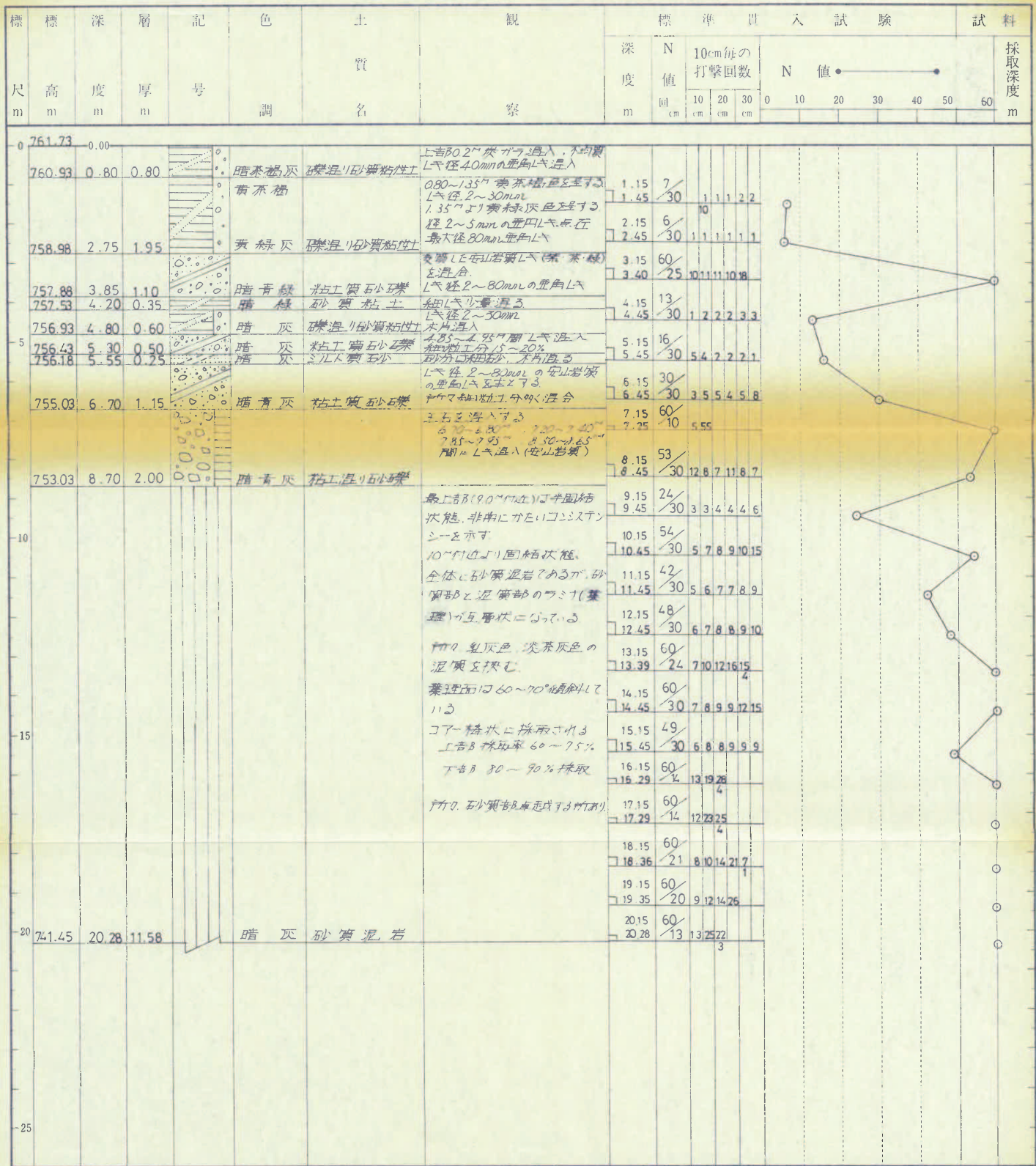
調査件名	西部中学校改築に係る地耐力調査業務	施 主	岡 谷 市 役 所		
調査地点	岡 谷 市 川 岸 中 一 丁 目 1 ~ 1	施 工	関 東 地 質 株 式 有 限 公 司		
調査年月日	自 60 年 11 月 15 日 ~ 至 60 年 11 月 16 日	現場責任者	小野了介	使用機械	K R - 100
標 高	761.65 m	孔内水位 自然水位	GL - 2.60m	ボーリング担当者	石田寿完
				孔 径	φ 66 mm



試料採取方法の記号(記号の右の数字は試料番号)
 ○-1 乱さない試料
 ⊙-2 貫入試験機による試料
 ●-3 コアー試料
 試料採取深度と回収比
 3.20 3.20-3.70は試料採取深度(m)
 45 は回収比 45 50
 50 50cm:貫入深さ
 3.70 45cm:試料長さ

第 4 号孔 ポーリング柱状図

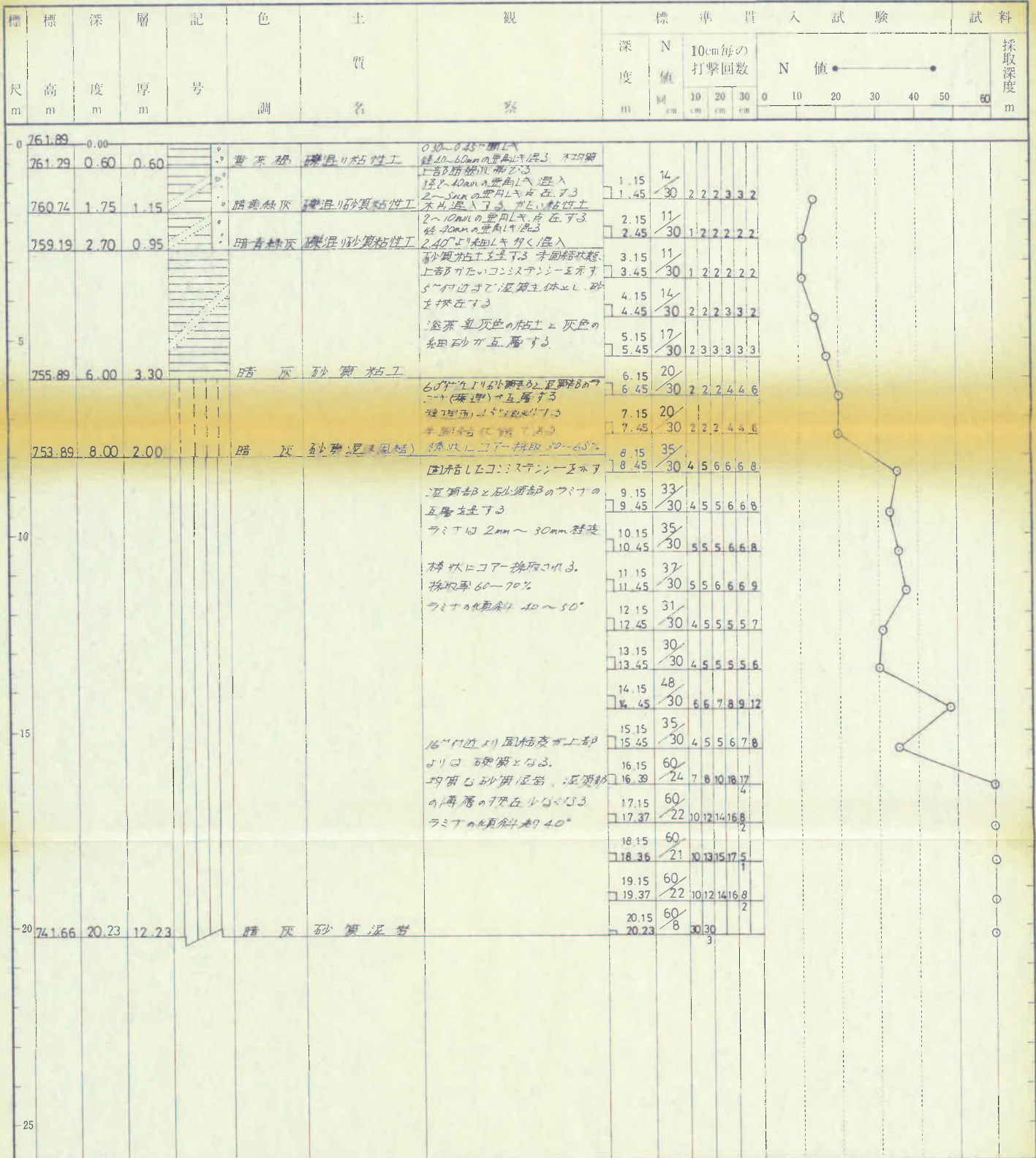
調査件名	西部中学校改築に係る地耐力調査業務		施主	岡谷市役所		
調査地点	岡谷市川岸中一丁目1~1		施工	関東地質株式会社		
調査年月日	自 60年11月21日 ~ 至 60年11月22日		現場責任者	小野了介	使用機械	K R-100
標高	761.73 m	孔内水位 自然水位	GL-1.70 m	ボーリング担当者	毛利美佐夫	孔径 φ66 mm



(注) 1. 試料採取方法の記号 (記号の右の数字は試料番号)
 ○-1 乱さない試料
 ⊙-2 貫入試験機による試料
 ●-3 コア-試料
 試料採取深度と回収比
 3.20-3.70は試料採取深度 (m)
 45 50 50cm:貫入深さ、
 45m:試料長さ
 3.70

第 6 号孔 ボーリング柱状図

調査件名	西部中学校改築に係る地耐力調査業務	施 主	岡 谷 市 役 所		
調査地点	岡 谷 市 川 岸 中 一 丁 目 1~1	施 工	関 東 地 質 株 式 有 限 公 司		
調査年月日	自 60 年 11 月 18 日 ~ 至 60 年 11 月 19 日	現場責任者	小野了介	使用機械	K R-100
標 高	761.89 m	孔内水位 自然水位	ナシ m	ボーリング担当者	毛利美佐夫
				孔 径	φ 66 mm

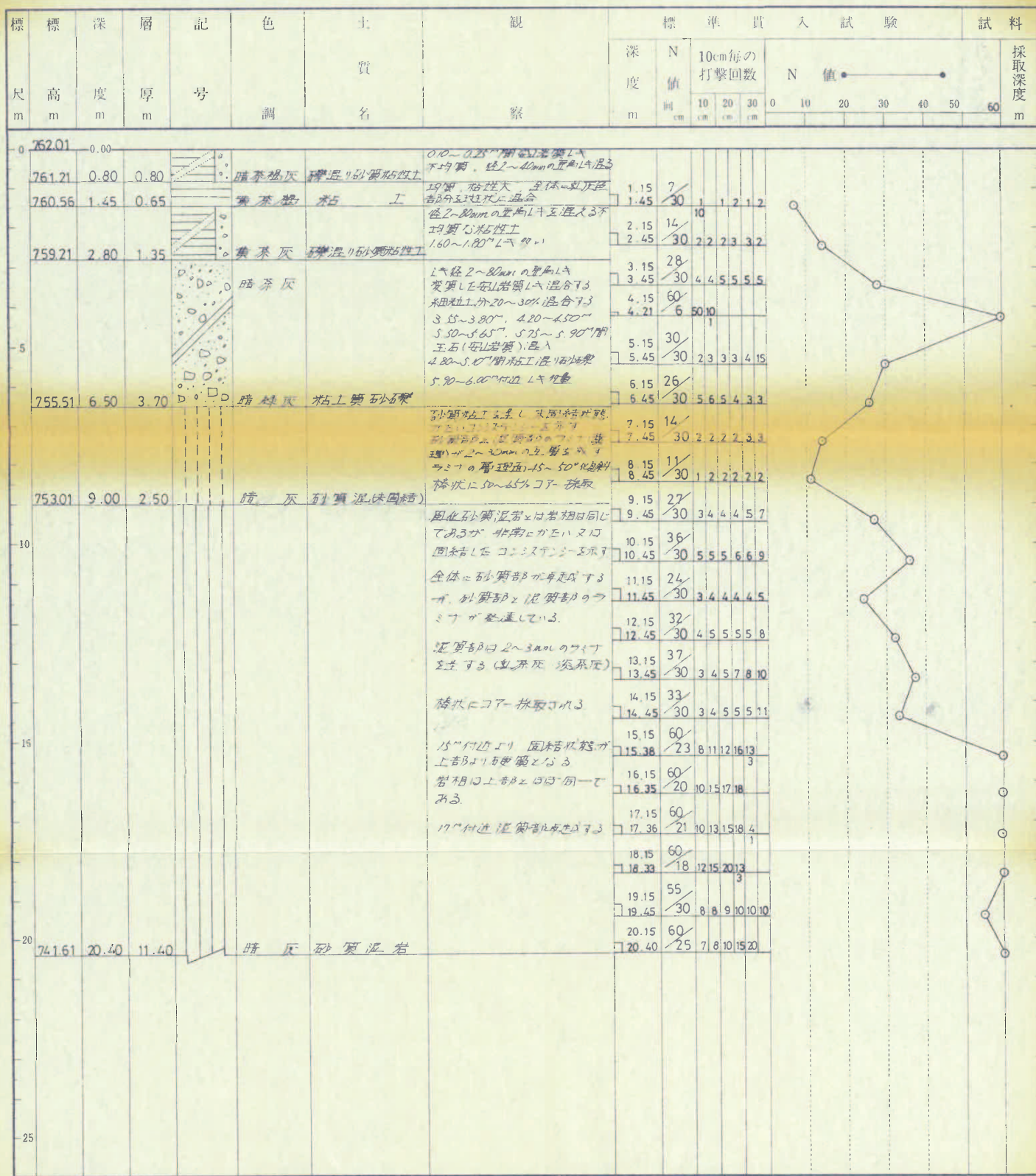


1. 試料採取方法の記号 (記号のイロ数字は試料番号)

- 1 乱さない試料
 - 2 貫入試験機による試料
 - 3 コア-試料
- 試料採取深度と回収比
 3.20 - 3.70は試料採取深度 (m)
 は回収比 45 50
 50cm: 貫入深さ
 45cm: 試料長さ

第 7 号孔 ボーリング柱状図

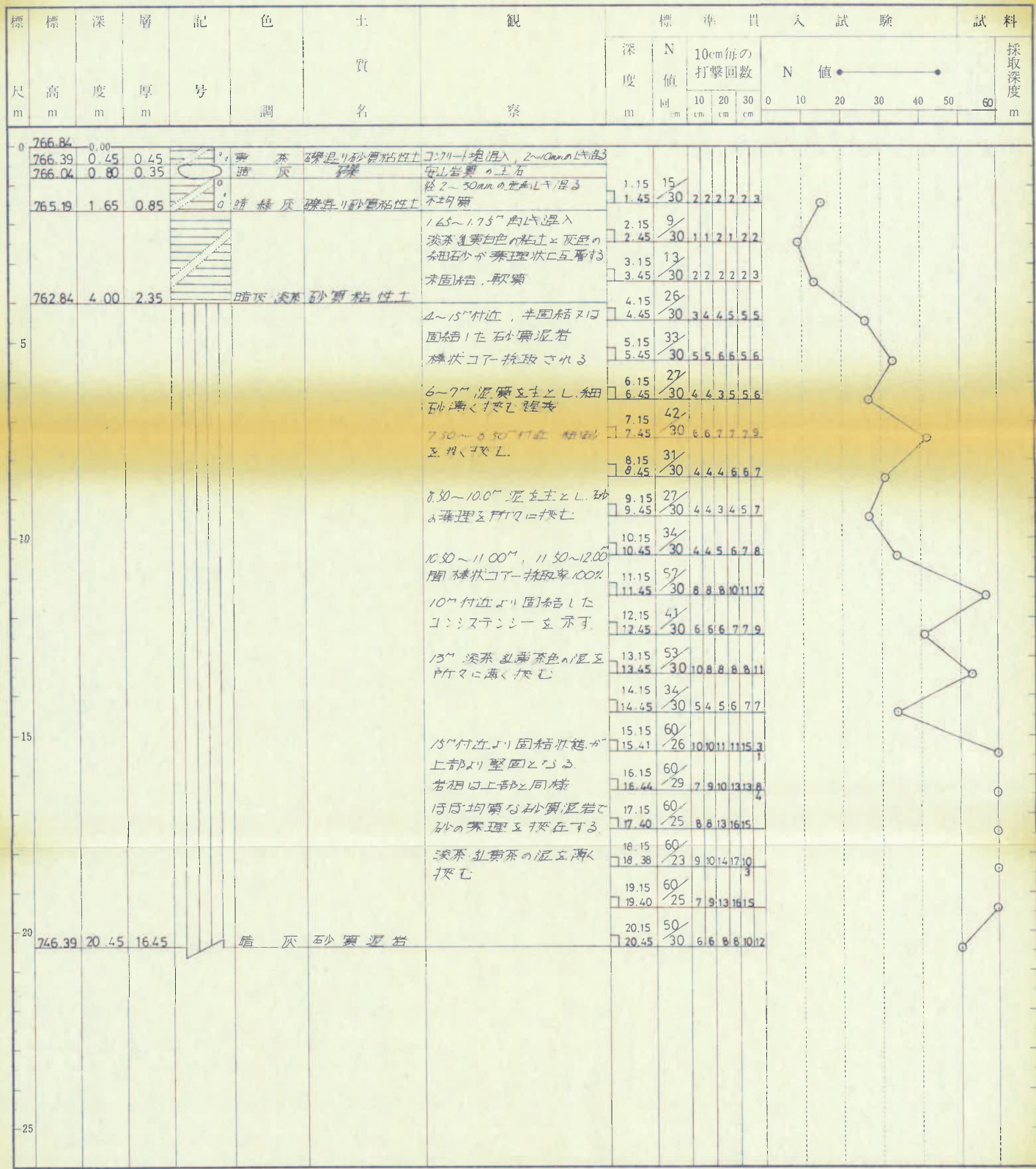
調査件名	西部中学校改築に係る地耐力調査業務	施 主	岡 谷 市 役 所		
調査地点	岡 谷 市 川 岸 中 一 丁 目 1 ~ 1	施 工	関 東 地 質 株 式 会 社		
調査年月日	自 60 年 11 月 19 日 ~ 至 60 年 11 月 20 日	現場責任者	小野了介	使用機械	K R-100
標 高	762.01 m	孔内水位 自然水位	GL-2.70 m	ボーリング担当者	毛利美佐夫
				孔 径	φ 66 mm



(注) 1. 試料採取方法の記号 (記号のイ、数字は試料番号)
 ○-1 乱さない試料
 ⊙-2 貫入試験機による試料
 ●-3 コア-試料
 試料採取深度と回収比
 3.20-3.70は試料採取深度 (m)
 45 50
 は回収比 45 50
 50cm: 貫入深度
 45cm: 試料長さ

第 8 号孔 ボーリング柱状図

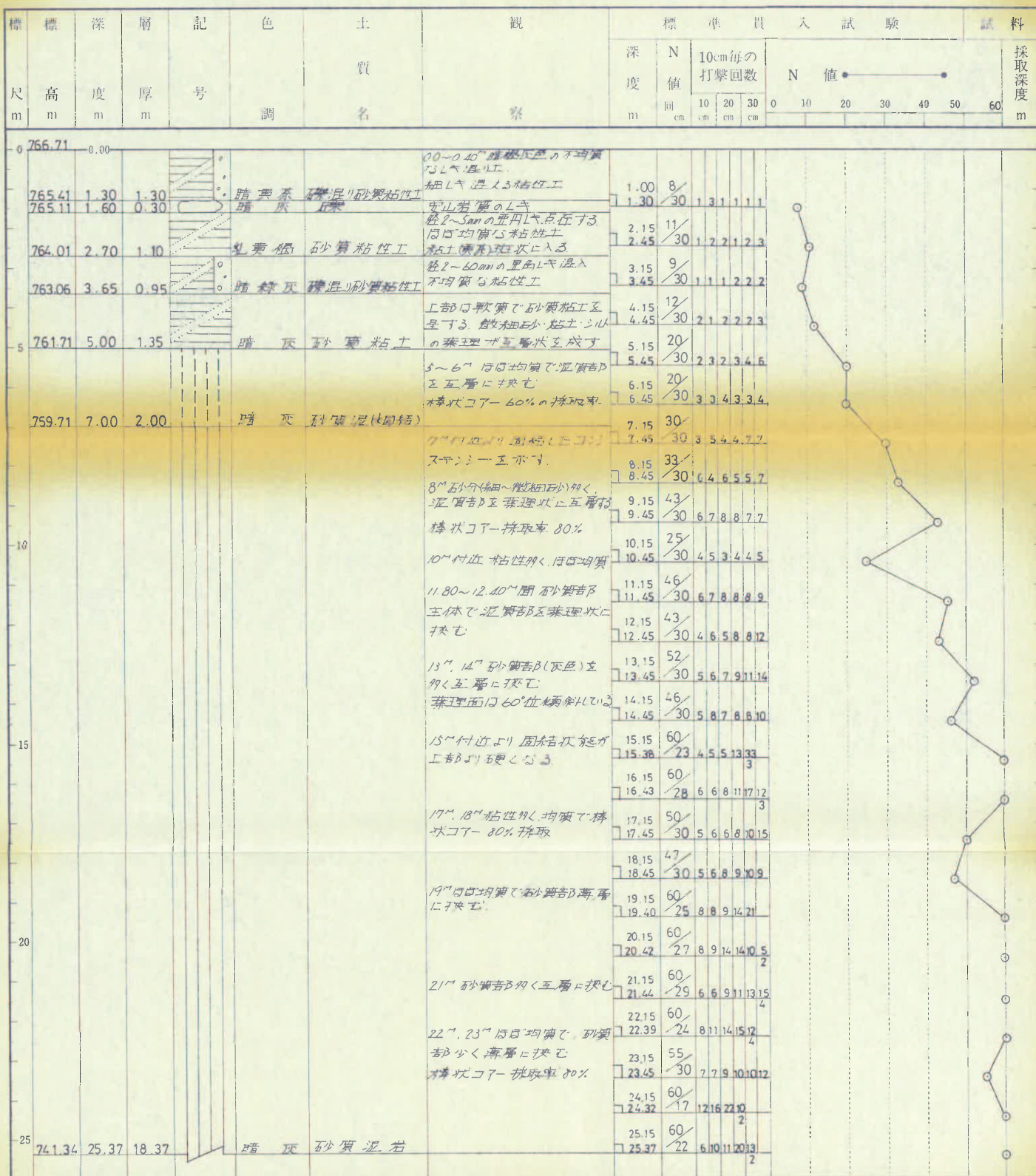
調査件名	西部中学校改築に係る地耐力調査業務	施主	岡谷市役所		
調査地点	岡谷市川岸中一丁目1~1	施工	関東地質株式会社		
調査年月日	自 60年11月17日 ~ 至 60年11月18日	現場責任者	小野了介	使用機械	K R-100
標高	766.84 m	孔内水位 自然水位	GL-0.45 m	ボーリング担当者	石田寿完
				孔径	φ 66 mm



(注) 1. 試料採取方法の記号 (記号の右の数字は試料番号)
 ○-1 乱さない試料
 ⊙-2 貫入試験機による試料
 ●-3 コア試料
 試料採取深度と回収比
 3.20 3.20-3.70は試料採取深度 (m)
 45 は回収比 45 50
 50 50cm: 貫入深さ
 3.70 45cm: 試料長さ

第 9 号孔 ポーリング柱状図

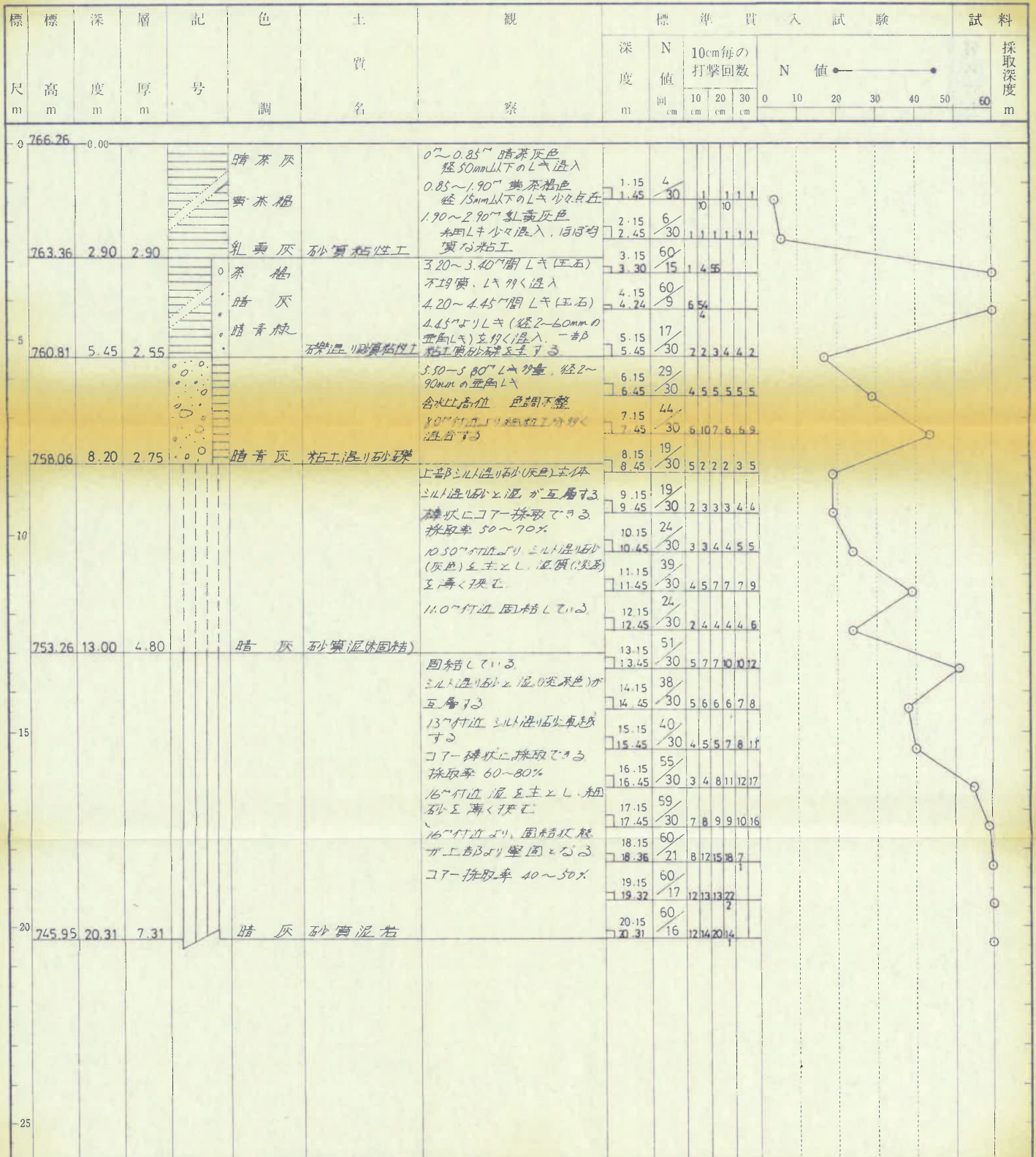
調査件名	西部中学校改築に係る地耐力調査業務		施主	岡谷市役所		
調査地点	岡谷市川岸中一丁目1~1		施工	関東地質株式会社		
調査年月日	自 60 年 11 月 21 日 ~ 至 60 年 11 月 22 日		現場責任者	小野了介	使用機械	K R-100
標高	766.71 m	孔内水位 自然水位	ナシ m	ボーリング担当者	石田寿完	孔径 φ 66 mm



(注) 1. 試料採取方法の記号(記号の右の数字は試料番号)
 ○-1 乱さない試料
 ⊙-2 貫入試験機による試料
 ●-3 コア-試料
 試料採取深度と回収比
 3.20 3.20-3.70は試料採取深度(m)
 45 は回収比 45 50
 50 (50cm:貫入深さ)
 3.70 45cm:試料長さ

第 10号孔 ポーリング柱状図

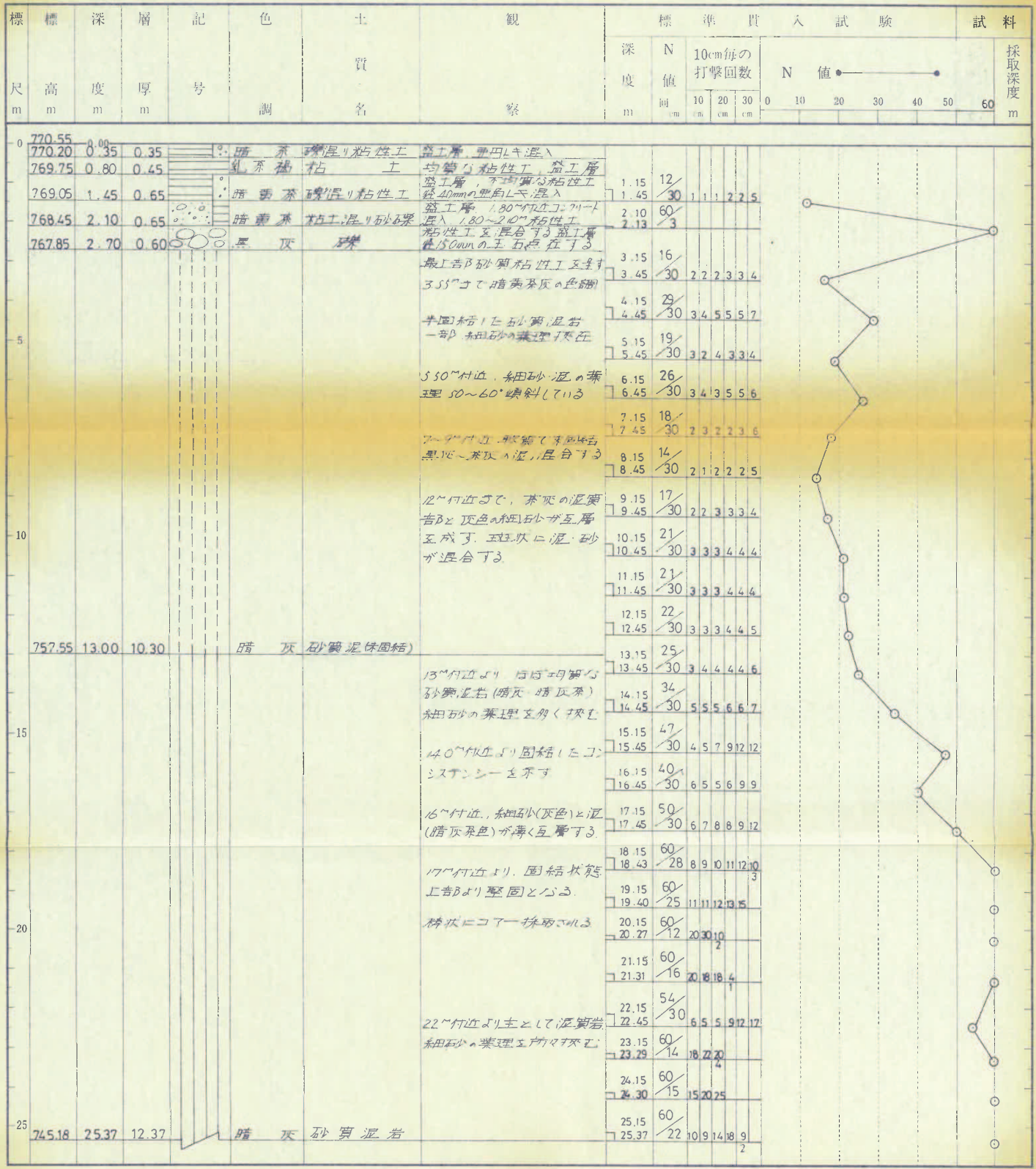
調査件名	西部中学校改築に係る地耐力調査業務	施 主	岡 谷 市 役 所		
調査地点	岡谷市川岸中一丁目1~1	施 工	関東地質株式会社		
調査年月日	自 60年11月25日 ~ 至 60年11月26日	現場責任者	小野了介	使用機械	K R-100
標 高	766.26 m	孔内水位 自然水位	GL-1.30 m	ボーリング担当者	毛利美佐夫
				孔 径	φ 66 mm



- 1 乱さない試料
 - 2 貫入試験機による試料
 - 3 コア試料
- 試料採取深度と回収比
 3.20-3.70は試料採取深度(m)
 45 50 60 は回収比 45 50 60
 (50cm:貫入深さ, 45cm:試料長さ)

第 1 号孔 ボーリング柱状図

調査件名	西部中学校改築に係る地耐力調査業務	施 主	岡 谷 市 役 所		
調査地点	岡 谷 市 川 岸 中 一 丁 目 1 ~ 1	施 工	関 東 地 質 株 式 会 社		
調査年月日	自 60 年 11 月 18 日 ~ 至 60 年 11 月 20 日	現場責任者	小野了介	使用機械	K R-100
標 高	770.55 m	孔内水位 孔自然水位	GL-2.60 m	ボーリング担当者	石田寿完
				孔 径	φ 66 mm



1. 試料採取方法の記号（記号の右の数字は試料番号）
 ○-1 乱さない試料
 ◎-2 貫入試験機による試料
 ●-3 コア-試料
 試料採取深度と回収比
 3.20 3.20-3.70は試料採取深度(m)
 45 回収比 45 50
 50 50cm:貫入深さ
 3.70 45cm:試料長さ

第 1 2号孔 ボーリング柱状図

調査件名	西部中学校改築に係る地耐力調査業務		施主	岡谷市役所		
調査地点	岡谷市川岸中一丁目1~1		施工	関東地質株式会社		
調査年月日	自 60年11月23日 ~ 至 60年11月24日		現場責任者	小野了介	使用機械	K R-100
標高	766.74 m	孔内水位 自然水位	GL-0.50 m	ボーリング担当者	石田寿完	孔径 φ66 mm

標高 m	層厚 m	記号	色調	土質名	観察	標準貫入試験			試料採取深度 m			
						深 度 m	N 値	10cm毎の 打撃回数				
						10	20	30	N 値			
						0	10	20	30	40	50	60
766.74	0.00											
766.24	0.50			淡灰系	シルト質粘土	0.20mまで蓋子 2-3mmの蓋子1ヶ点在 後細砂と薄く夾し 軟弱な風化土	1.15	7				
755.24	1.50			暗灰系	粘土	微細砂~細砂で細粒工 分を混合する。 1.80m付近泥(暗灰系)の薄層を 夾し。 3.60m付近より泥(暗灰系)の薄 層を夾す	1.45	30	1	1	1	1
							2.15	20				
							2.45	30	2	2	2	3
							3.15	21				
							3.45	30	2	3	3	4
762.24	4.50			灰	シルト混り砂(風結)	細砂と泥(暗灰系)が互層 する。 砂層を多く夾す 7.50~8.00m間 採取コア 100% 採取 7m付近 固結している 8m付近より細砂を多く 夾す	4.15	17				
							4.45	30	2	3	2	3
							5.15	23				
							5.45	30	3	4	3	4
							6.15	24				
							6.45	30	4	3	4	4
							7.15	35				
							7.45	30	5	5	4	6
							8.15	28				
757.99	8.75			暗灰	砂質泥(風結)	細砂~微細砂を主とし 細粒工分を若干混合する。 泥(暗灰系)を薄く所々 夾す 棒状にコア-採取できる 採取率100%、固結している	8.45	30	4	4	3	4
							9.15	25				
							9.45	30	3	3	3	4
							10.15	37				
							10.45	30	6	5	4	6
755.14	11.60			灰	シルト混り砂	棒状にコア-採取できる 採取率100%、固結している	11.15	39				
							11.45	30	5	6	6	6
							12.15	36				
							12.45	30	5	5	5	6
753.94	12.80			暗灰	砂質泥岩	細砂と泥が互層する 棒状にコア-採取できる 固結している	13.15	46				
							13.45	30	6	6	6	8
							14.15	60				
752.64	14.10			灰	シルト混り砂	微細砂~細砂主体 固 結している。細粒工分を混合 泥の薄層を少々夾す	14.39	24	11	11	12	12
							15.15	60				
							15.24	9	14	4		
							16.15	60				
							16.45	30	6	6	6	11
							17.15	60				
							17.43	28	8	8	8	10
							18.15	60				
							18.27	12	18	30	17	3
							19.15	60				
							19.36	21	12	12	15	16
							20.15	50				
746.29	20.45			暗灰	砂質泥岩	1.9m付近 細砂の薄層を 少々夾す	20.45	30	6	6	6	10

1 試料採取方法の記号 (記号の右の数字は試料番号)

- 1 乱さない試料
- 2 貫入試験機による試料
- 3 コア試料

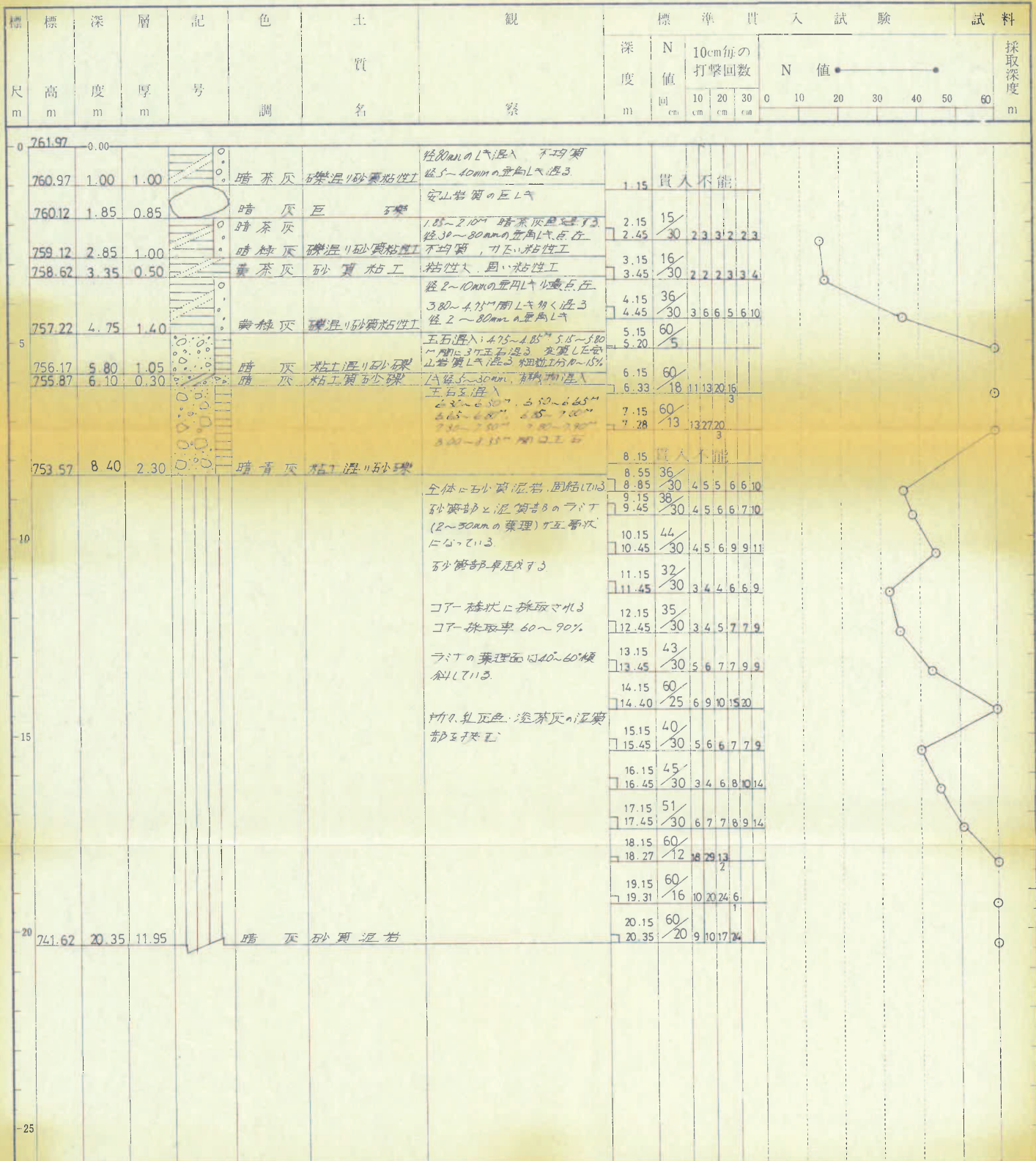
試料採取深度と同取比

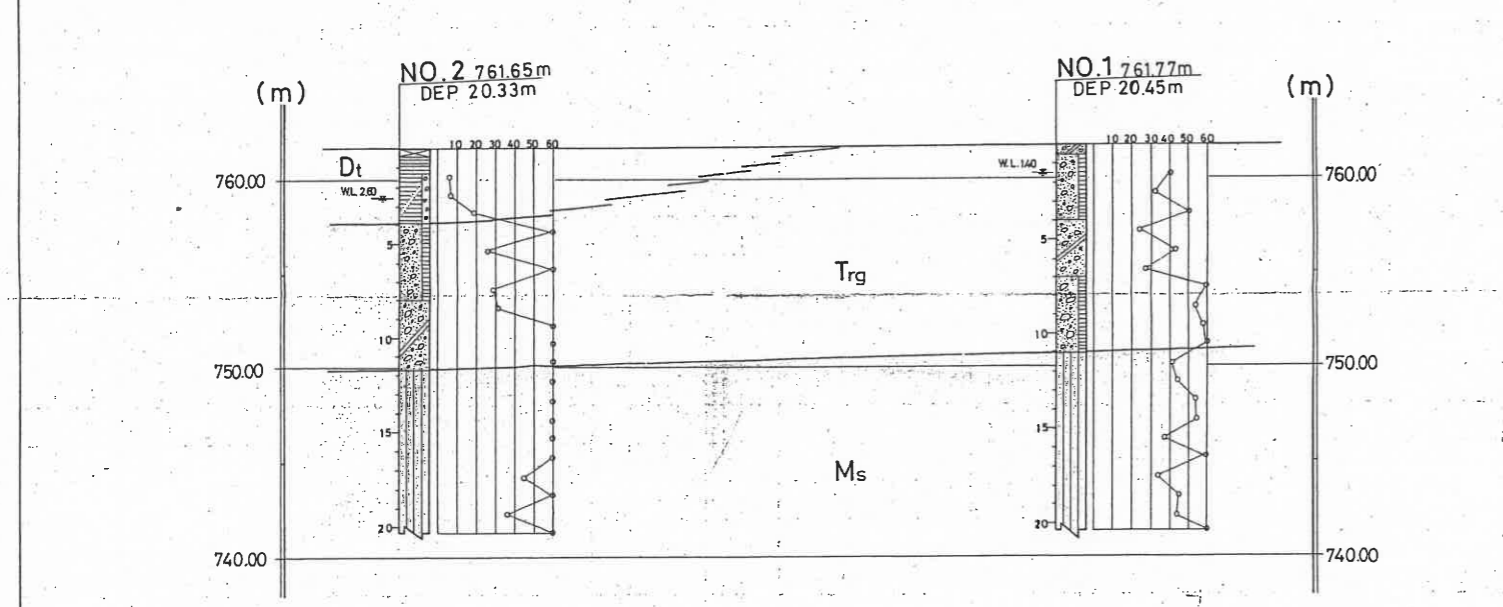
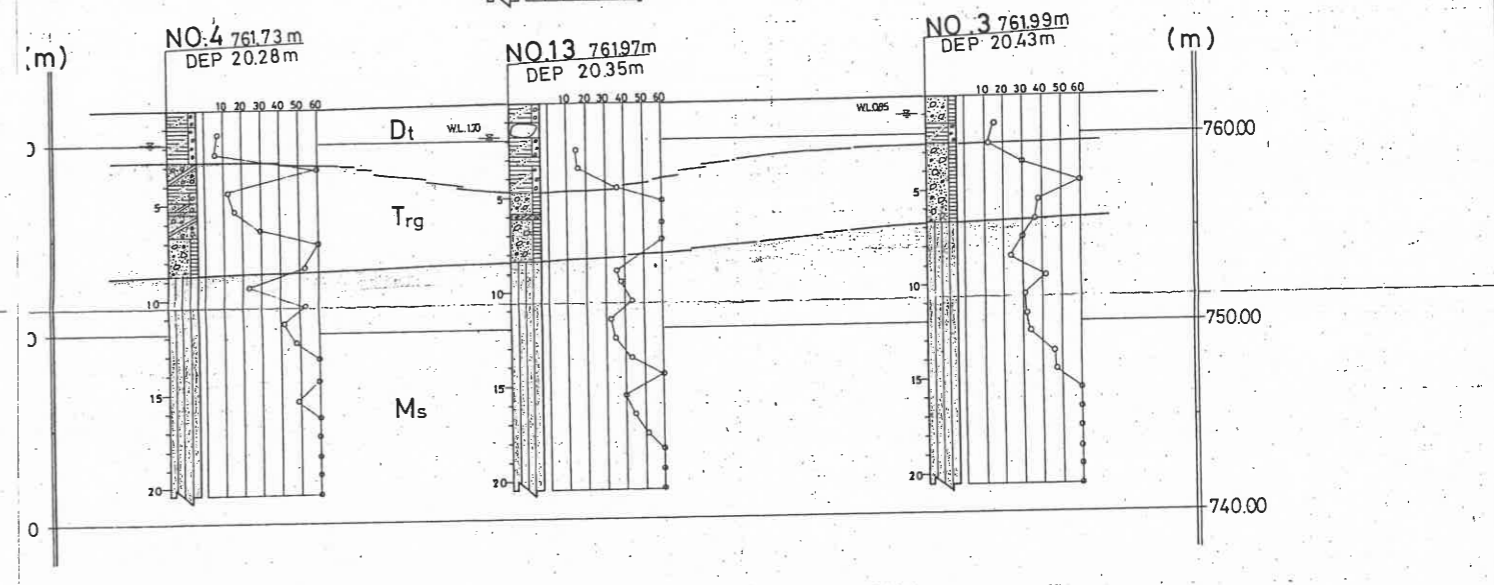
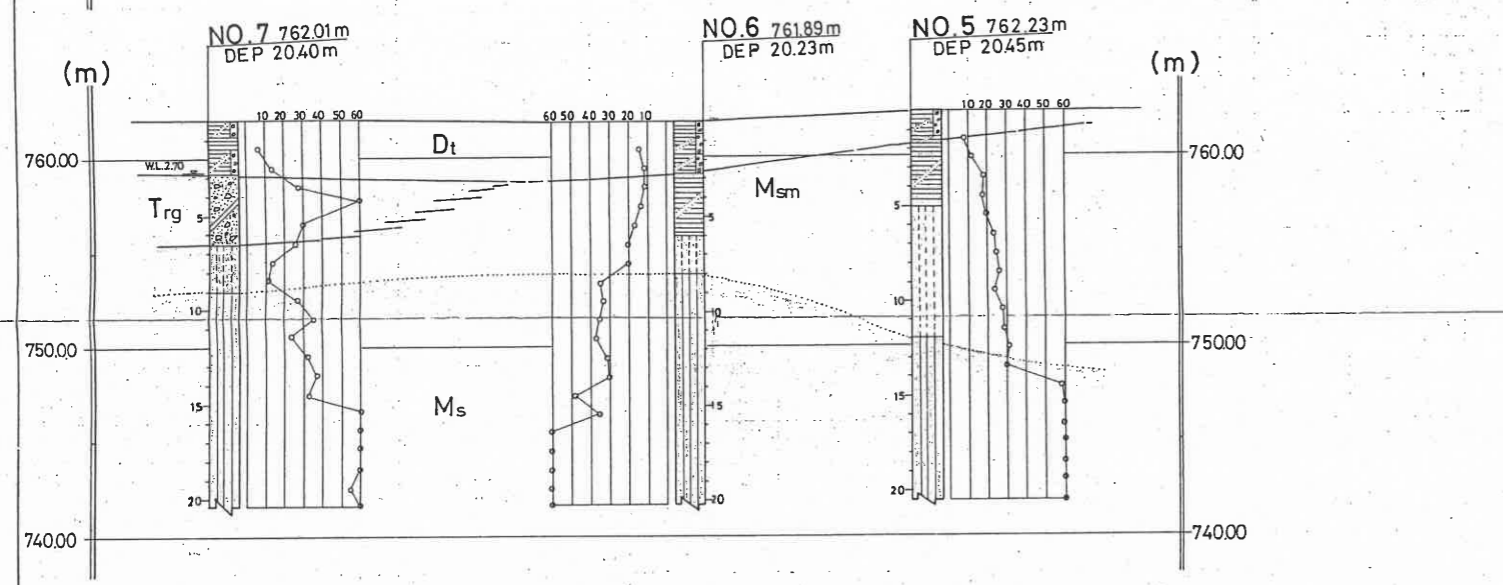
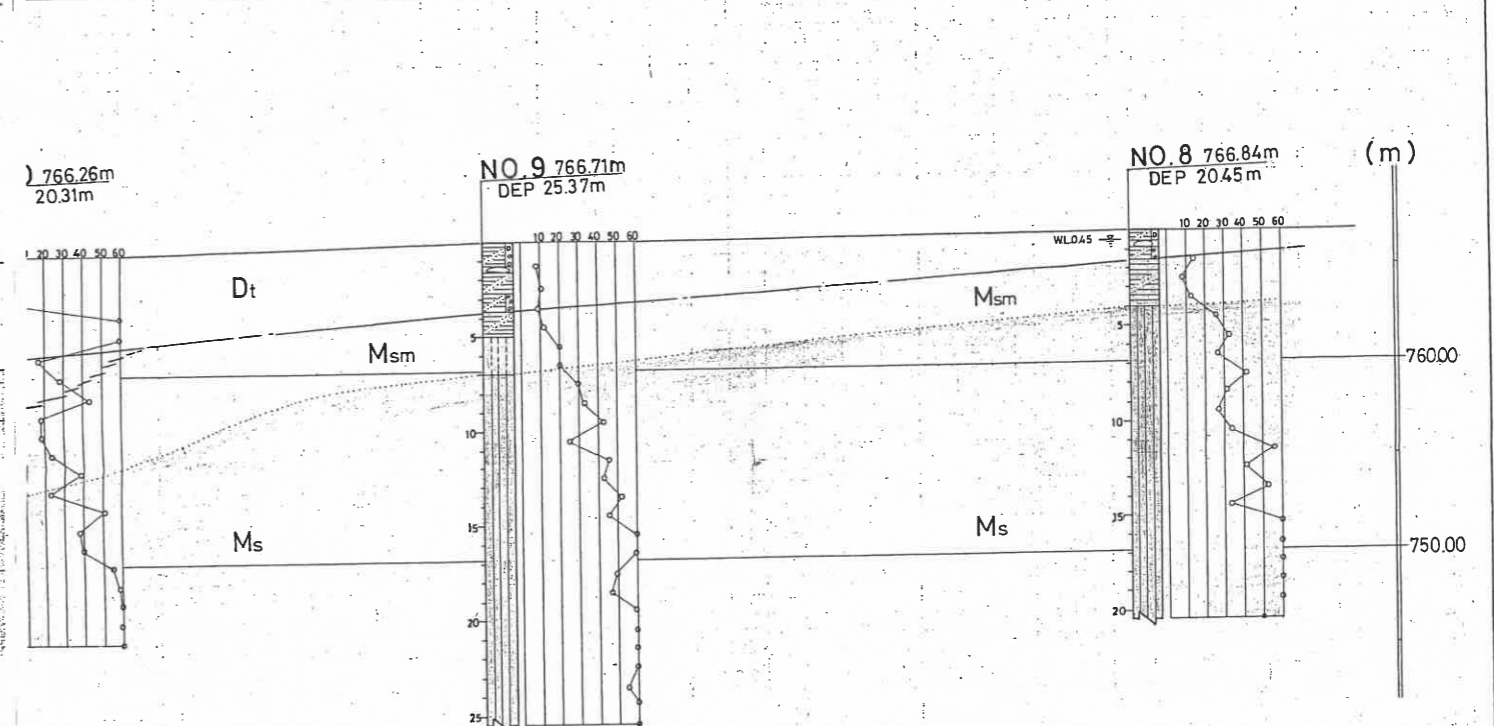
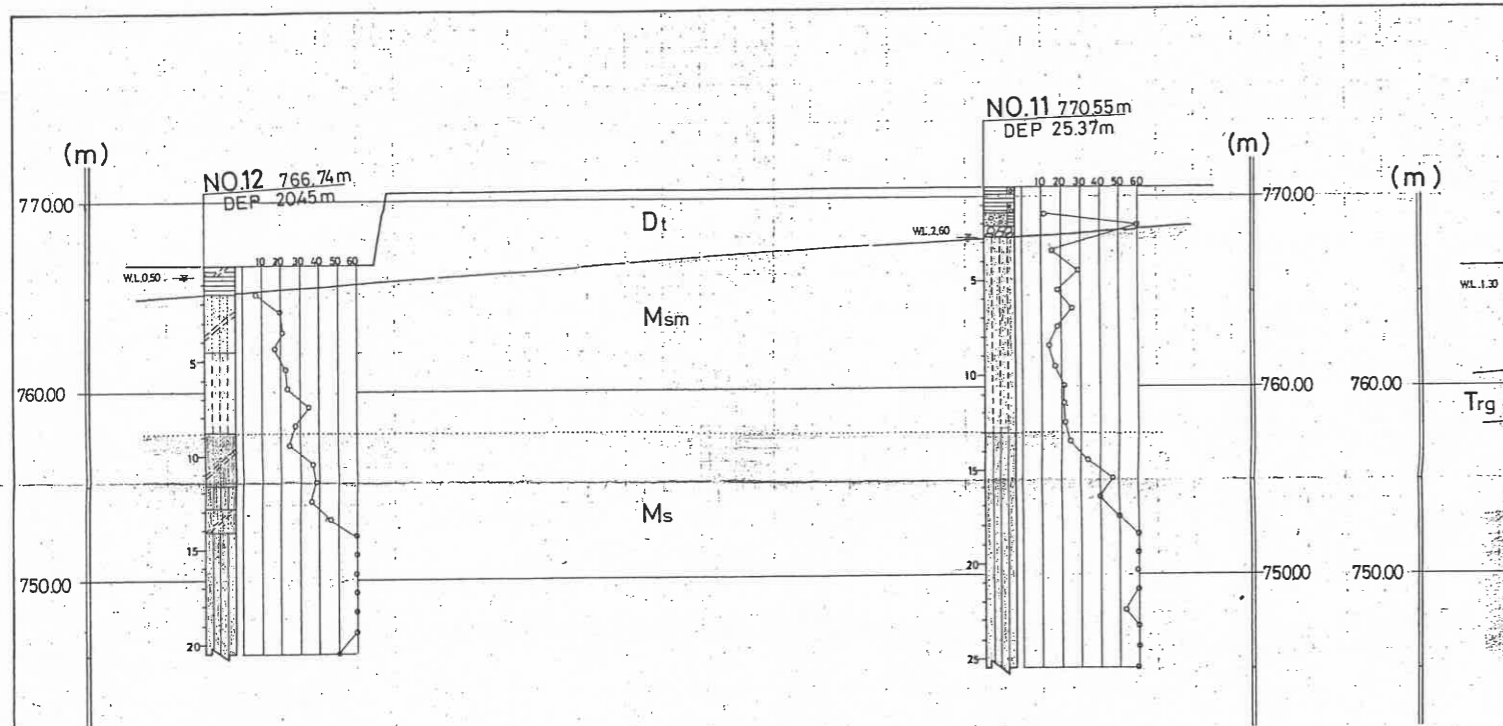
3.20 3.20-3.70は試料採取深度 (m)

45 注同取比 45 50 (50cm:貫入深さ、45cm:試料長さ)

第13号孔 ボーリング柱状図

調査件名	西部中学校改築に係る地耐力調査業務		施主	岡谷市役所		
調査地点	岡谷市川岸中一丁目1~1		施工	関東地質株式会社		
調査年月日	自60年11月23日 ~ 至 60年11月24日		現場責任者	小野了介	使用機械	KR-100
標高	761.97 m	孔内水位 自然水位	GL-1.75 m	ボーリング担当者	毛利美佐夫	孔径 φ66 mm

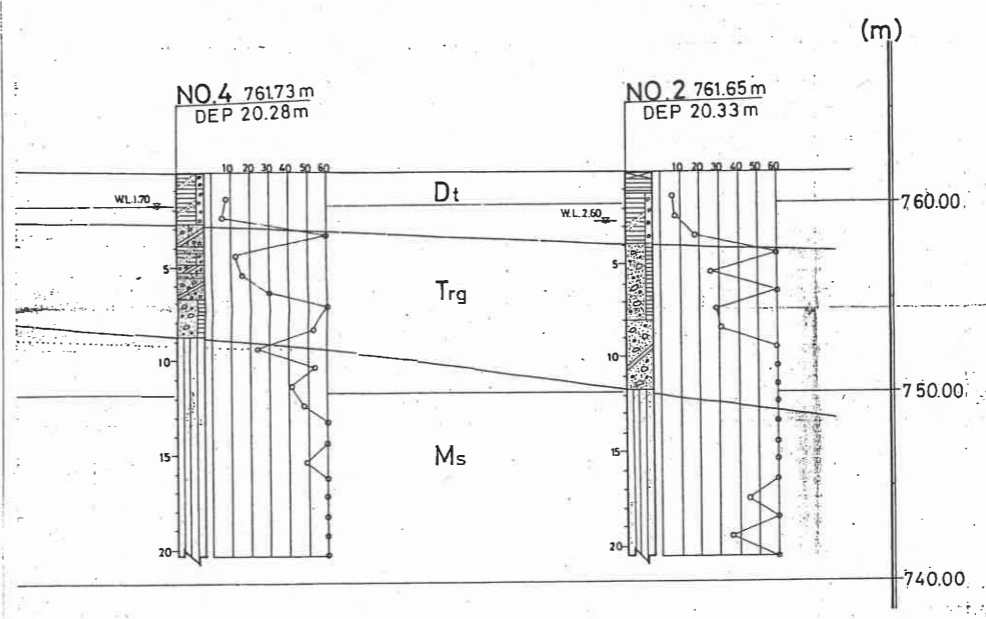
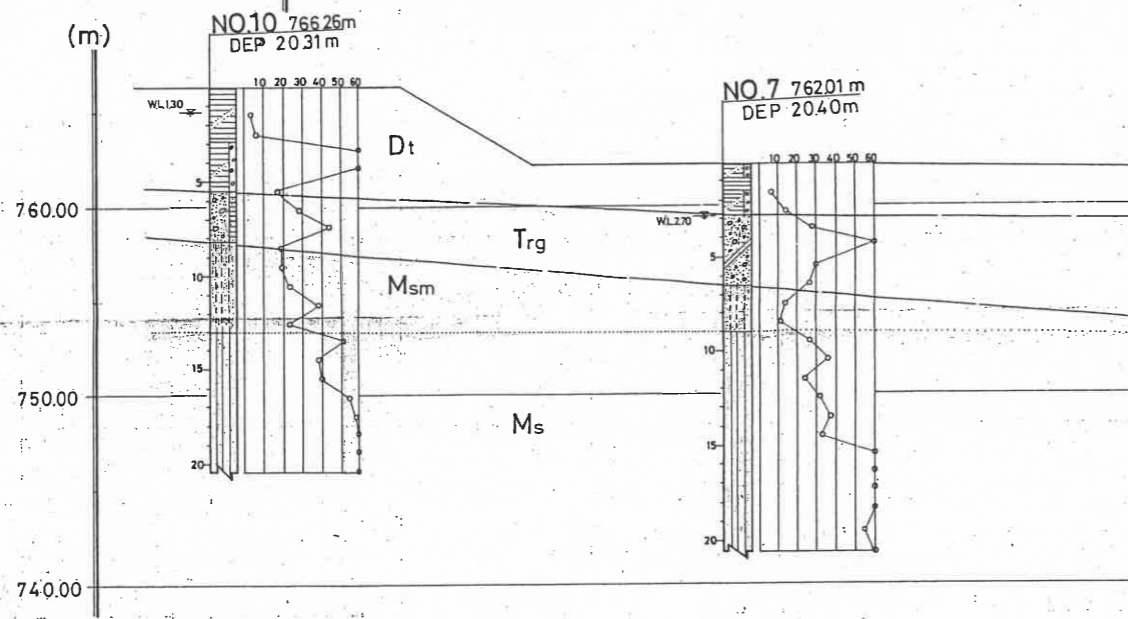
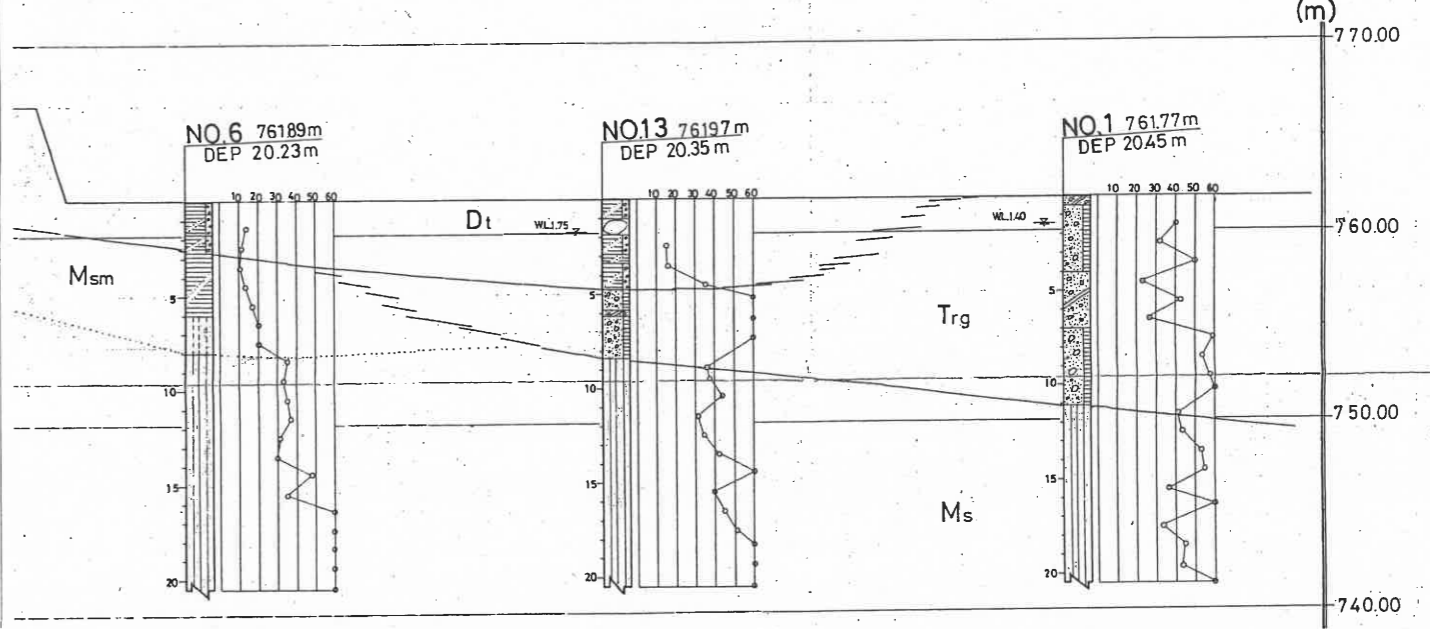
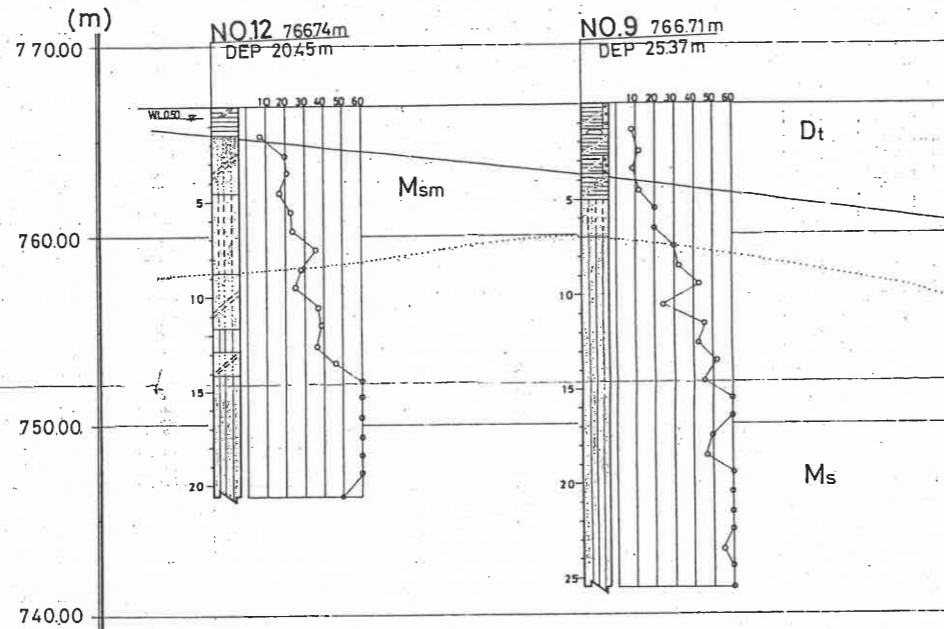
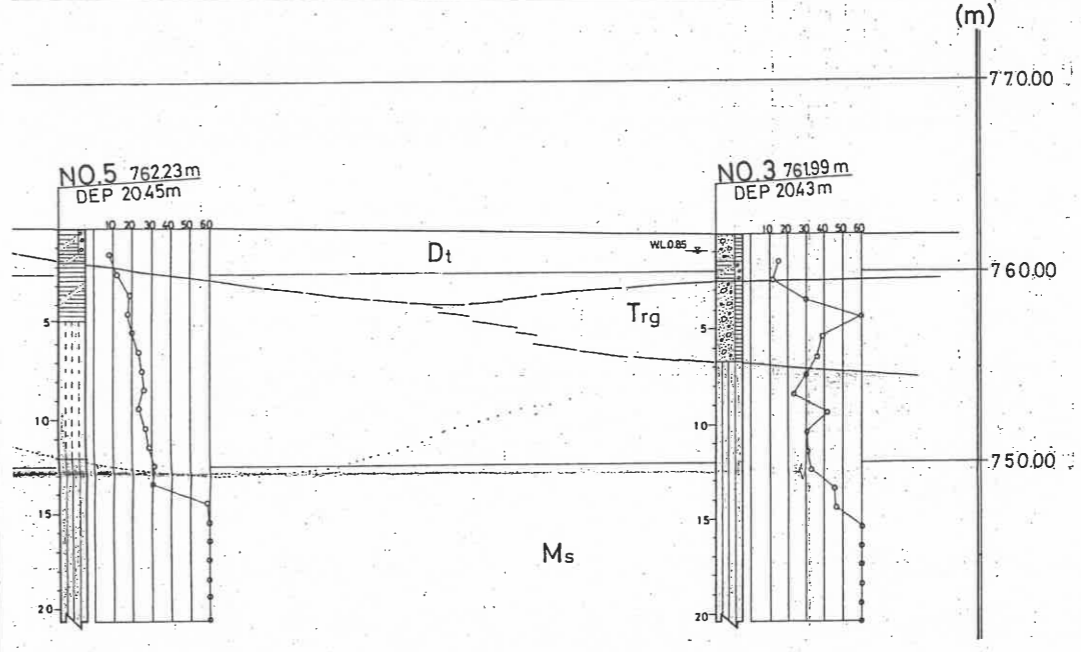
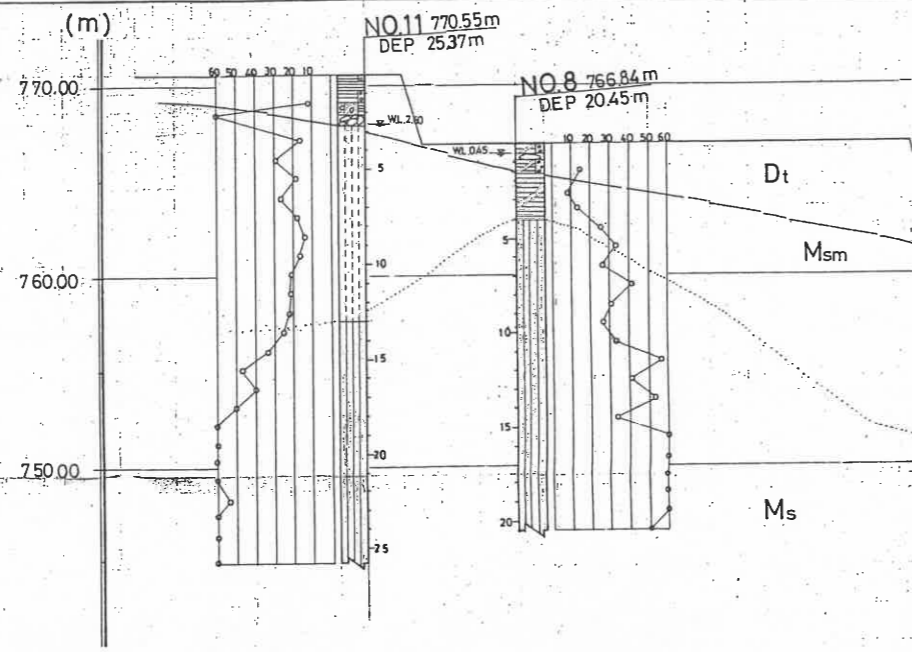




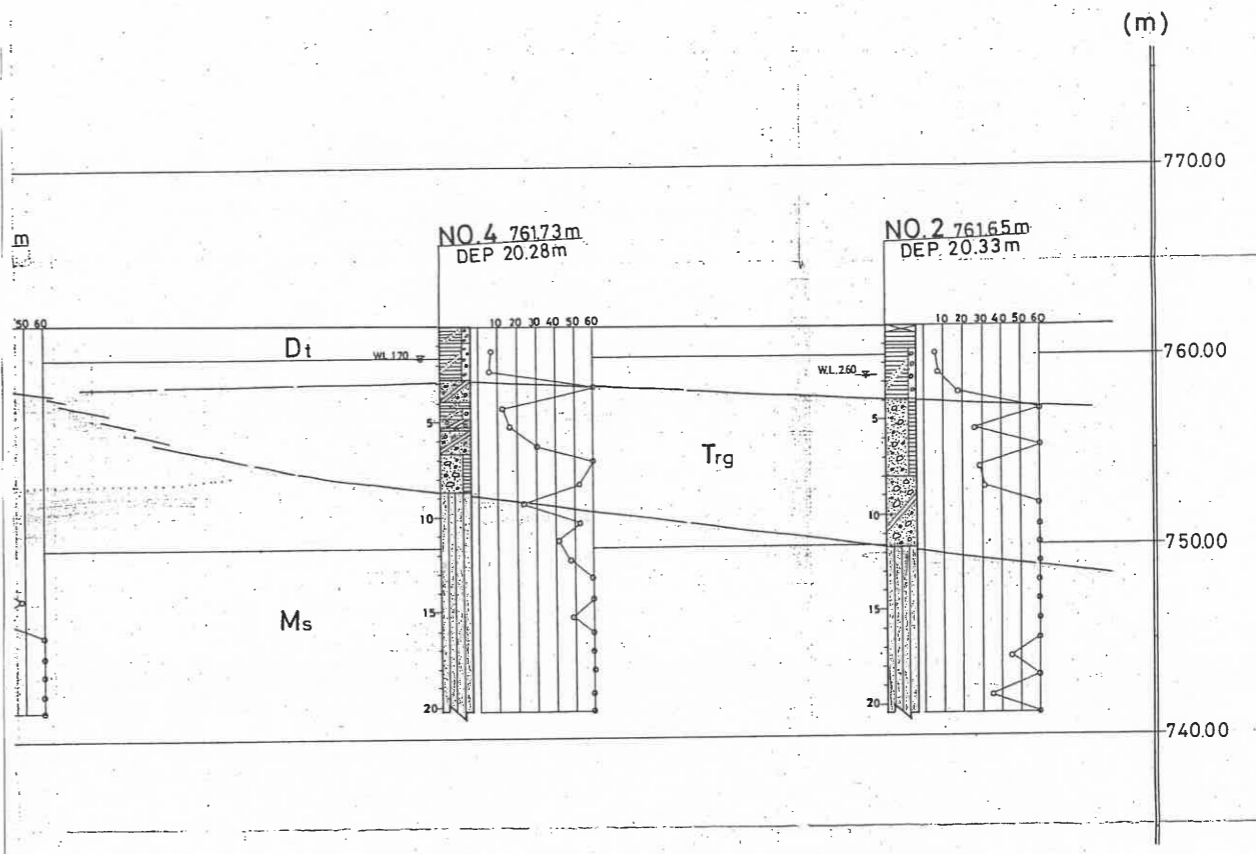
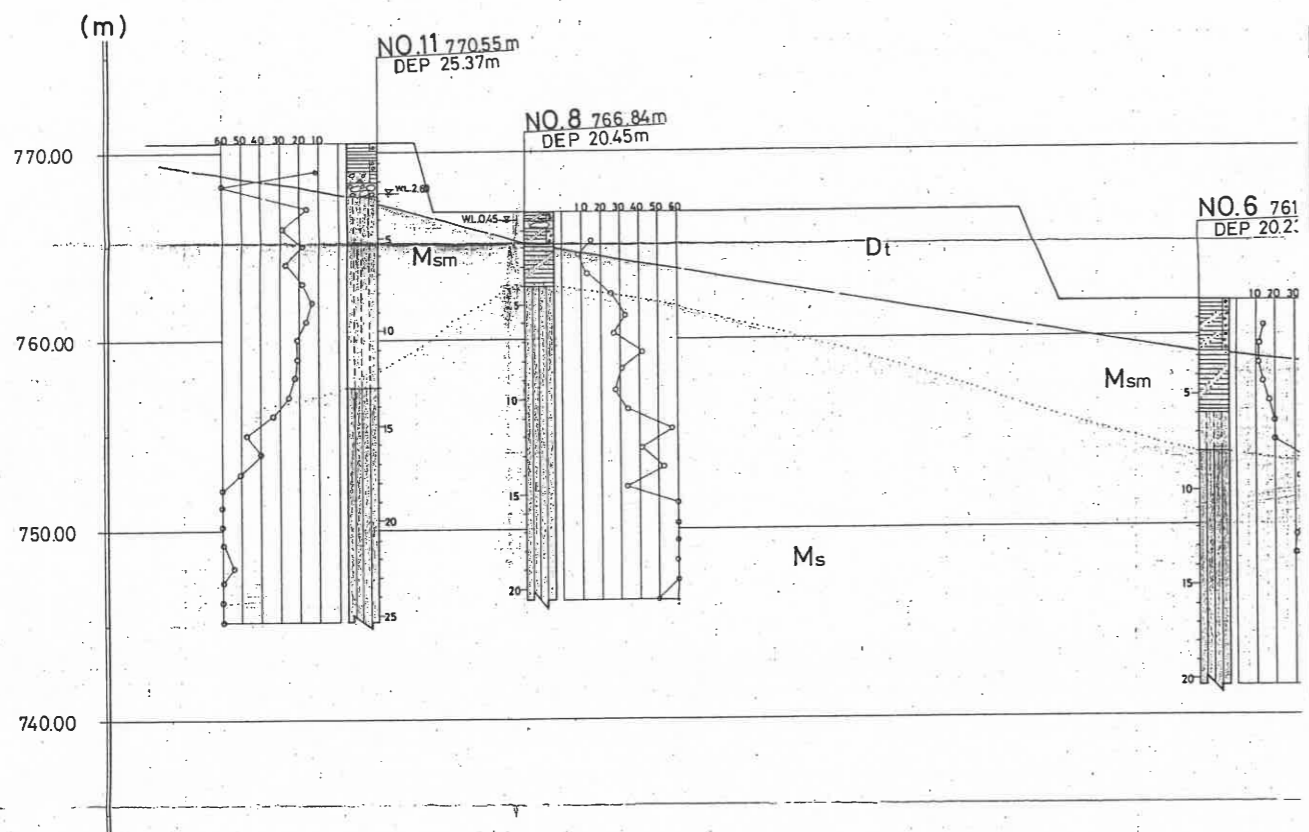
凡 例

地質時代	地層区分	主な土質名	記号	記 事
更新世 第四紀	(礫土層)	粘 性 土	Dt	主として上部は茶系統の色調を呈する礫混り砂質粘性土又は粘性土からなり、下部は暗青緑色・黄緑色を呈する。径2~80mmの亜角礫を混入し、又、径2~10mmの亜円礫を点在する。N値は主として4~15前後の“中位の”“かたい”コンシステンシーを示す。調査孔No.5~No.11地点及びNo.13地点では玉石、巨礫を混入する。一部は礫土層と考えられるが境界は不明瞭である。
更新世 第四紀	更新世 丘陵礫層	粘 土 質 砂 礫 粘 土 混 り 砂 礫	Trg	主として粘土質砂礫、粘土混り砂礫よりなり。所々に安山岩質の玉石を混入する。層相は均質でなく細粒土分、砂分が局所に卓越する所がありN値にバラツキがみられる。No.4地点を除いては実測N値>24の“中位の”又は、“密な”以上の相対密度を示す。
第四紀 更新世 ～ 第三紀	砂 泥 層	砂 質 粘 性 土 シルト 混 り 砂 砂 質 泥 (未固結)	Msm	主として実測N値<30の未固結な砂泥層で砂及び泥の層層、葉理が互層する。No.5~6地点、No.8~9地点の上層ではN値=10~20の砂質粘性土がNo.12地点ではN値が20前後のシルト混り砂が分布する。
第三紀		砂 質 泥 岩	Ms	主として実測N値>30の固結した砂泥層で砂及び泥の層層が互層し、地層としては上層との境界はなくN値が漸次に増加する。細砂(灰色)・泥(淡茶色)の葉理が顕状をなし、N値>60ではほぼ均質な砂泥層である。

調査名 西部中学校改築に係る地耐力調査業務
 図面名 地層推定断面図
 縮尺 縦 1:200 横 1:200 図番 1/3
 関東地質株式会社長野営業所

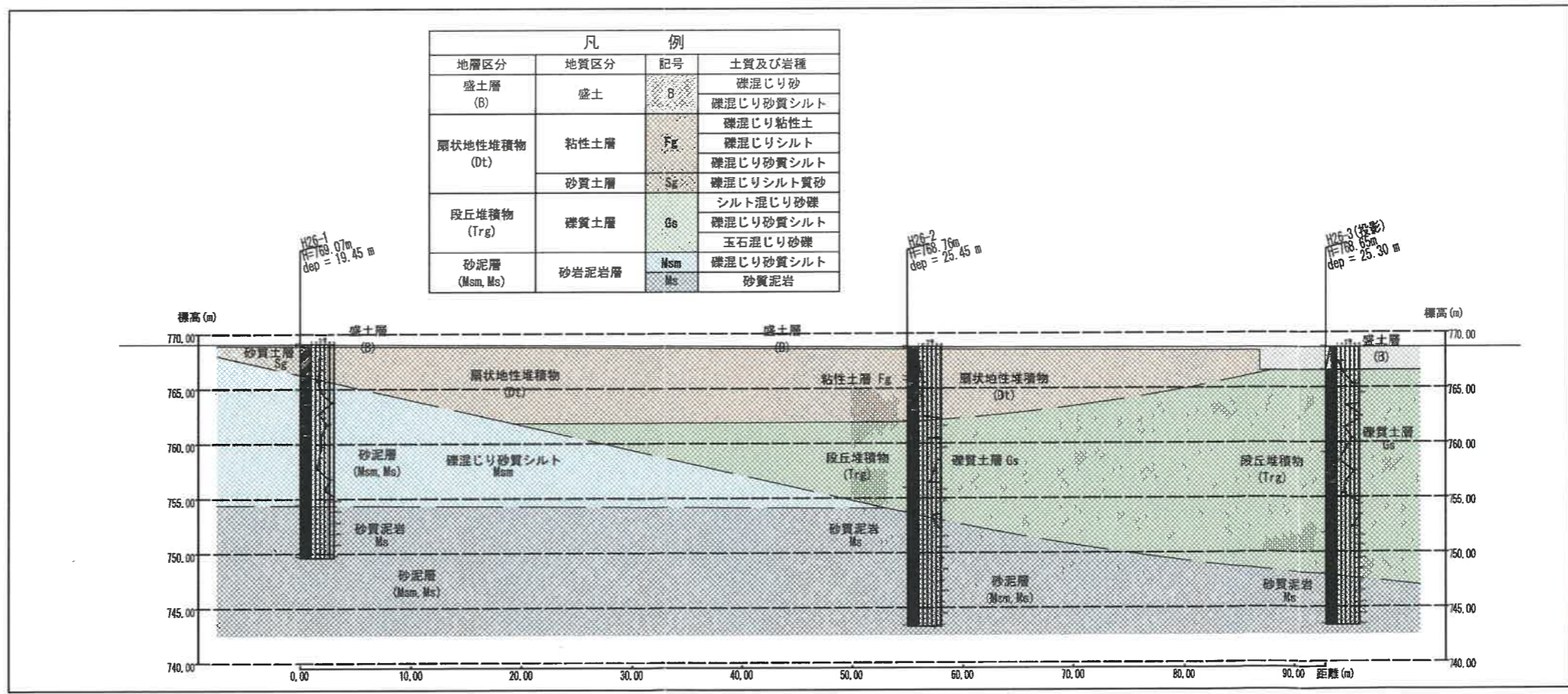
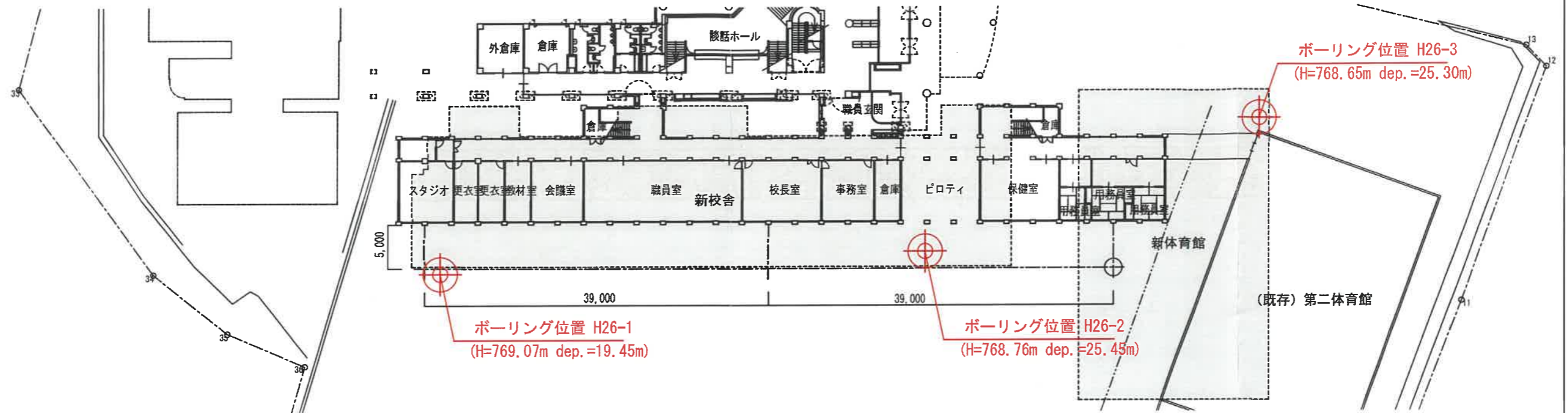


調査名	西部中学校改築に係る地耐力調査業務		
図面名	地層推定断面図		
縮尺	縦 1:200	横 1:200	図番 2/3
関東地質株式会社長野営業所			



調査名 西部中学校改築に係る地耐力調査業務			
図面名	地層推定断面図		
縮尺	縦 1:200	横 1:200	図番 3/3
関東地質株式会社長野営業所			

地質想定断面図
S=1:500



ボーリング柱状図

調査名 岡谷西部中学校改築工事実施設計業務委託

ボーリングNo

事業・工事名

シートNo

ボーリング名	H26-3		調査位置	岡谷市川岸中1丁目1番1号			北緯	36° 2' 48.6"	
発注機関	岡谷市役所			調査期間	平成26年7月7日 ~ 26年7月 日		東経	138° 1' 35.4"	
調査業者名	株式会社 坂本建築事務所 電話 (0266-72-6128)		主任技師	現場代理人	陣内 幸司 コア鑑定者 金子 英亮		ボーリング責任者	中沢 憲弘	
孔口標高	H=768.65m	角	180° 上 90° 下 0°	方	北 270° 西 180°	東 90° 南 0°	地盤勾配	水平0° 鉛直90°	
総掘進長	25.30m	度	0°	向	180°	南	使用機種	TOHO D0-C ハンマー落下用具 半自動型	
							エンジン	ヤンマー NFD9-EK ポンプ TOHO BG-3C	

